

FREED

レスキュー時の取り扱い

本書は、ハイブリッド車「FREED」のレスキュー活動を行う際に、特に注意していただきたい事項について説明したものです。次ページより該当する年式を選択のうえ、該当箇所をよくお読みいただき、記載されている注意事項を遵守してください。

2026年3月

本田技研工業株式会社

確認したい車両を選択してください（該当ページにリンクします）

FREED



販売期間：2024.06～

FREED



販売期間：2016.09～
2024.05

FREED



販売期間：2011.10～
2016.08

ハイブリッド車 レスキュー時の取り扱い



FREED  **HEV**

2024年6月

本田技研工業株式会社

はじめに




本書は、ハイブリッド車「FREED e:HEV」のレスキュー活動をする際に注意していただきたい事項を説明しています。
安全に作業していただくためにも、本書をよくお読みいただき注意事項を遵守してください。

FREED e:HEVは、モータとガソリン エンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用しています。モータは高電圧バッテリーやジェネレータ（発電機）から供給される電気により駆動され、高電圧バッテリーはジェネレータだけでなく走行中の回生ブレーキ等によっても充電されます。

本田技研工業株式会社

安全に関する表示について

以下のシンボル マークのある項目は、安全に関して特に重要な事項を説明しています。
必ずお読みください。

 危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
 注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの



※車両の高電圧部位には左図のような高電圧警告マークが貼付されています。

目次

1. FREED e:HEVの見分け方	2
2. ハイブリッド車について.....	3
■高電圧部位	3
■高電圧の隔離	4
■高電圧の遮断	4
■リチウムイオン バッテリについて	4
■リチウムイオン バッテリ液漏れ時の処置	5
■車両の固定および安定を図る際は	5
3. レスキュー作業時の注意.....	6
■処置概要	6
■補機類の事前処理	6
■乗員を車室内から救助する際は	6
■火災時の注意と処置	7
■水没時の注意と処置	7
■リチウムイオン バッテリ破損時の注意と処置	8
■高電圧システムの遮断方法	9
■車両切断時の注意と処置.....	12
4. 事故車運搬要領.....	14
■車両データ.....	14
■けん引要領.....	14
■けん引フック・フロント タイダウンの位置	15
高電圧注意標示	巻末

1. FREED e:HEVの見分け方

1. FREED e:HEVの見分け方

以下にFREED e:HEVの外観および特徴を紹介します。

事故車両が該当車種であれば、本書に記載の注意事項を遵守してレスキュー作業にあってください。

外 観

FREED e:HEV：後部に“e:HEV”エンブレムがあります。



内 装

FREED e:HEVには「Bレンジ」が設定されています
※Sレンジはガソリン車になります。



型式による識別

運転席シート右側床面にて型式およびフレーム ナンバーが確認できます。フレーム ナンバーの前3ケタが型式になります。

表示例：GT5- XXXXXXX (7桁の数字) および GT6- XXXXXXX (7桁の数字)・・・2WD

GT7- XXXXXXX (7桁の数字) および GT8- XXXXXXX (7桁の数字)・・・AWD

FREED e:HEVであることは、最初の3ケタの記号「GT5」「GT6」「GT7」「GT8」で識別できます。



運転席シート右側床面



打刻位置

2. ハイブリッド車について

2. ハイブリッド車について

FREED e:HEVの高電圧システムは、総電圧173V以上の高電圧を使用しています。そのため、レスキュー活動にあたっては、高電圧に対する注意と対応が必要です。

⚠ 警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- ・ 事故処理後の車両保管時など関係者が車両から離れる場合、他の人がハイブリッド車と知らずに不用意に触れることがないように、車両には「高電圧作業中・触るな」の標示をしてください。（本書巻末の高電圧注意標示をコピーしてご活用ください）

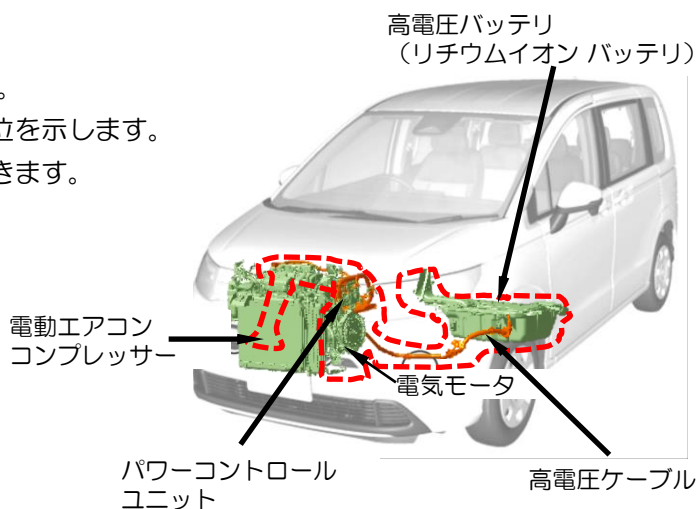
【準備品】FREED e:HEVのレスキュー活動にあたっては、あらかじめ以下の物を準備しておいてください。

- ①絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕
- ②ABC消火器
- ③耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕
- ④ウエス、古タオル

■高電圧部位

FREED e:HEVの高電圧部位は、右図の通りです。

- ・ イラスト中の点線で囲まれた部分が高電圧部位を示します。
- ・ 高電圧ケーブルは、オレンジ色なので識別できます。



⚠ 警告

- ・ 車両の吊り上げやジャッキアップ時、フロア下側の高電圧ケーブルに物が当たらないようにしてください。高電圧ケーブルが破損または切断された場合、配線が露出し不用意に触れると、高電圧による重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

2. ハイブリッド車について

■高電圧の隔離

FREED e:HEVは、高電圧が隔離されています。

- ・ 高電圧回路はプラス（+） / マイナス（-）の両極とも車体と絶縁されています。
- ・ 高電圧機器、高電圧配線にはケースやカバーを設け、高電圧部分の露出をなくしています。
- ・ 高電圧電装部品およびリチウムイオン バッテリーは、1列目シート床下に集中的に配置し、ケースに収納されています。
- ・ エンジン ルーム内の高電圧配線もケーブル カバーにより隔離されています。
- ・ 高電圧配線はオレンジ色で識別されています。
- ・ 高電圧部分には注意ラベルを貼付しています。

■高電圧の遮断

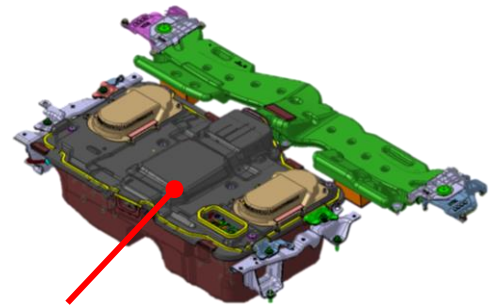
FREED e:HEVは、高電圧を遮断できるシステムを備えています。

- ・ 衝突や水没などにより、短絡や過電流があった場合はバッテリー コントロール ユニットにより高電圧は遮断されます。またヒューズが溶断することによっても高電圧が遮断されます。
- ・ 高電圧回路の遮断は、パワー スイッチに連動しています。パワー スイッチがOFFになることにより高電圧回路は遮断されます。

■リチウムイオン バッテリーについて

FREED e:HEVは、12Vの自動車用バッテリーのほかに、高電圧のリチウムイオン バッテリー（駆動用電池）を搭載しています。このリチウムイオン バッテリーは、総電圧が173V以上あります。リチウムイオン バッテリーは、ケースに収められ1列目シート床下に格納されていますので、通常はバッテリー本体は見えないようになっています。また、電解液もバッテリー内に密閉されていますので、交換・補充は不要です。

万一、リチウムイオン バッテリーが破損しても電解液は多量に流出するおそれはありません。液漏れした場合の処置については、次項をお読みください。



リチウムイオン バッテリー

車両前方

⚠ 危険

- ・ 車両損傷などで高電圧部品内部の構成部品や高電圧配線の導体が露出していた場合は、絶対に触らないでください。高電圧部品に不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

2. ハイブリッド車について

■リチウムイオン バッテリー液漏れ時の処置

FREED e:HEVのリチウムイオン バッテリーの電解液には揮発性有機溶剤が使用されています。また、無色透明のため見ただけでは判別できません。

リチウムイオン バッテリー付近に液漏れが確認され電解液が疑われる場合は、耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕を必ず着用し、乾燥したウエス等で漏れた液を拭き取ってください。使用したウエス等は密閉できる袋や容器に格納し、産業廃棄物として適切に処理してください。

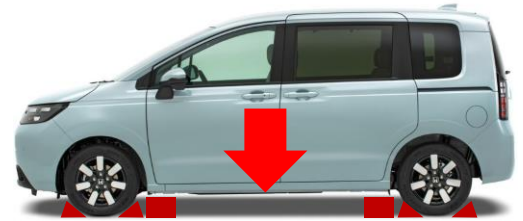
⚠ 警告

- リチウムイオン バッテリーの電解液は人体に有害なため、目に入ったり皮膚に付着すると失明や傷害を受けるおそれがあります。万一、電解液が目に入ったり皮膚に付着した場合は直ちに多量の水で洗浄し、専門医の診断を受けてください。

■車両の固定および安定を図る際は

通常の車両と同様に、パーキング ブレーキをかけて輪止めをしてください。

さらに安定させる場合は、車両の下に木片等の支持物を置いてタイヤの空気を抜くか、救出用リフト エアバッグ装置などを使用して車両を安定させてください。



⚠ 警告

- 支持物やリフト エアバッグ装置は、フロア下の高電圧部分や、排気系・燃料系などを避けて設置してください。高電圧部分の破損を招いたり、熱による予期せぬ火災の原因になるおそれがあります。

3. レスキュー作業時の注意

■処置概要

FREED e:HEVもガソリン エンジンを搭載しています。通常のカソリン エンジン車と同様の注意が必要なのはもちろんですが、ハイブリッド車固有の注意として高電圧に対する注意と処置が必要になります。

以下の各項目をよく読み、実際の作業時には状況に応じた対応をしてください。

■補機類の事前処理

必要に応じて、パワー ウインドやドア ロック、テールゲート等の操作を行ってください。

【重要】12Vバッテリーの接続を切り離すと、上記電装関係の操作が不可能になります。

■乗員を車室内から救助する際は

前席に座っている乗員救助のためにスペースを確保する必要がある場合は、ハンドルの位置を調整してください。

レバーを押し下げるとハンドル位置が調整出来、レバーを引き上げるとハンドル位置が固定できます。

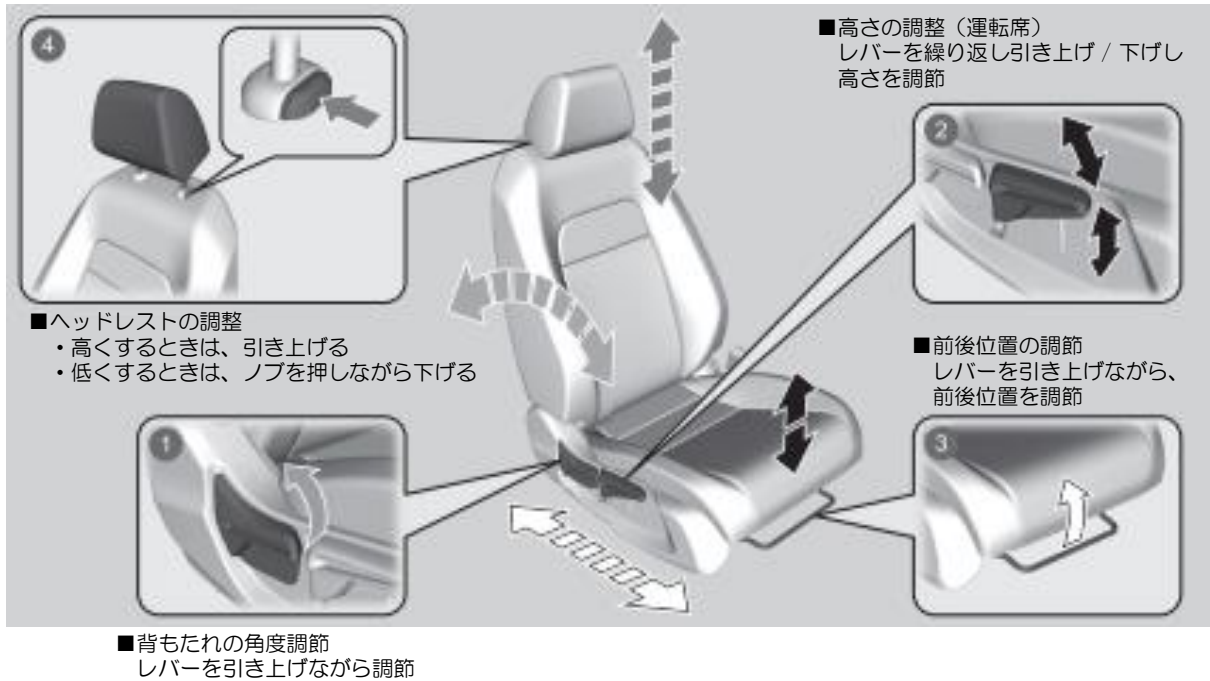


- ①解除
- ②調整
- ③固定

3. レスキュー作業時の注意

◆フロント シートの操作方法

スペース確保の必要に応じてフロント シートの位置を調整してください。



■火災時の注意と処置

車両火災時には、バッテリーの冷却を兼ねて大量の放水により消火してください。大量の放水が困難な場合はABC消火器（油火災・電気火災の両方に対応するもの）により消火してください。

火災時は電気配線の絶縁被覆が燃えることにより回路がショートし、パワー系のヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。また、大量の放水による漏電によっても回路がショートし、パワー系のヒューズやリチウムイオンバッテリーのメインヒューズが溶断し、高電圧が遮断されます。

火災部位により、ヒューズが溶断しない、放水による漏電が起きないなど、状況によっては高電圧が遮断されない場合もありますので、消火後は9ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

【参考】FREED e:HEVの高電圧システムに使用されている部品には、爆発性のあるものではありません。

■水没時の注意と処置

車両水没時、水の浸入による漏電で回路がショートすることにより、パワー系のヒューズやリチウムイオンバッテリーのメインヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。

水深が浅い、水の浸入による漏電が起きない部位の水没など、状況によって高電圧が遮断されない場合もありますので、可能な限り9ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

3. レスキュー作業時の注意

■リチウムイオン バッテリ破損時の注意と処置

衝突などでリチウムイオン バッテリが破損していた場合には、以下の警告を守ってください。

万一、液漏れが疑われる場合は、5ページの「リチウムイオン バッテリ液漏れ時の処置」の項に従ってください。

警告

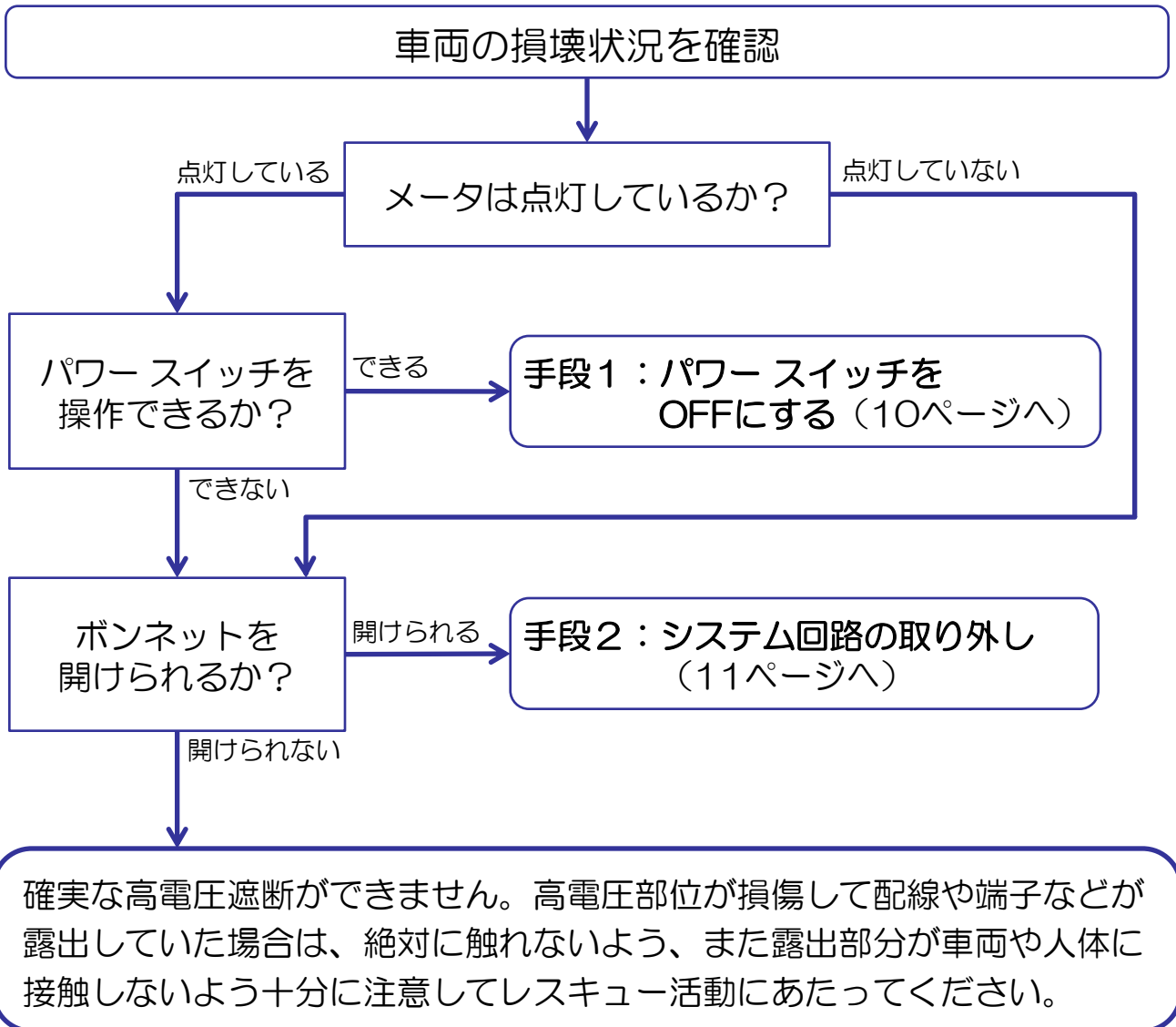
- オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

3. レスキュー作業時の注意

■高電圧システムの遮断方法

車両の損傷状況に応じて、高電圧を遮断してください。以下に紹介するどの方法でも高電圧は遮断できます。高電圧の遮断後は通常のレスキュー活動が可能です。

下図の流れに従って、最も容易な方法を選択してください。



▲ 警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

3. レスキュー作業時の注意

手段1：パワー スイッチをOFFにする

◆車両が損壊していても、パワー スイッチ操作ができる場合

パワー スイッチをOFFにしてください

①シフトレバーをPポジションにしてください。
※シフトレバーが動かないときはP16「緊急時のシフトレバー操作方法」参照

②パワー スイッチを約2秒以上押し続けて、OFFにします。



パワースイッチ

2秒以上長押し



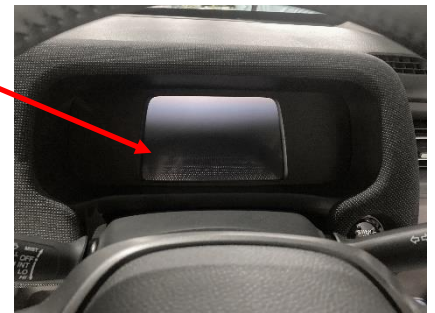
▲ 注意

メータ内の表示が消灯状態でパワー スイッチを操作すると、システムが起動する場合があります。

メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください

メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください。

※意図しない再始動を防ぐためにも、キーレスリモコンを車から最低でも6メートル離してください。



▲ 注意

パワー スイッチOFF後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあってください。

レスキュー活動を開始してください

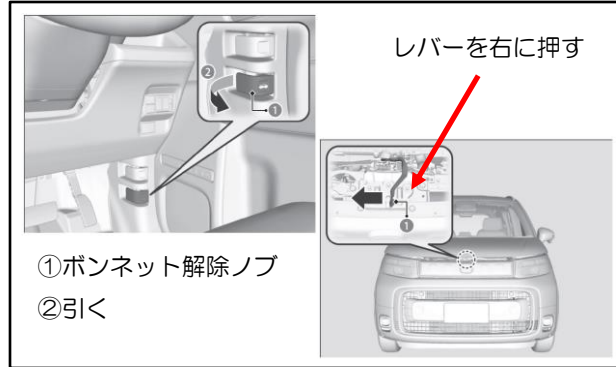
3. レスキュー作業時の注意

手段2：システム回路の取り外し

◆パワー スイッチ操作ができないが、ボンネットは開けられる場合

ボンネットを開けてください

運転席足元にあるボンネット解除ノブを手前に引き、浮き上がったボンネット前部中央にあるレバーを引き上げてロック機構を解除し、ボンネットを引き上げます。上記手順が実行できない場合は、バールなどでボンネットをこじ開けてください。可能ならば、開いたボンネットは備え付けのステーで固定してください。



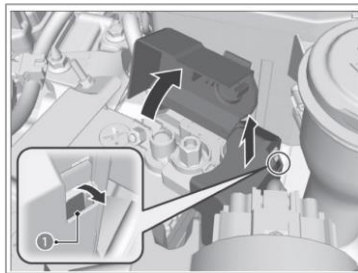
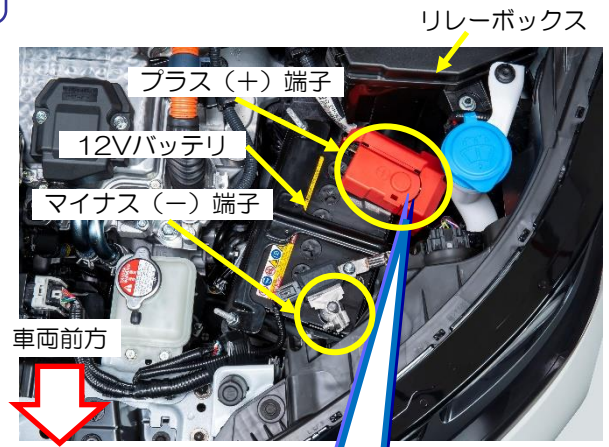
12Vバッテリーの接続を外してください

12Vバッテリーから、マイナス（-）端子側のケーブルを外します。

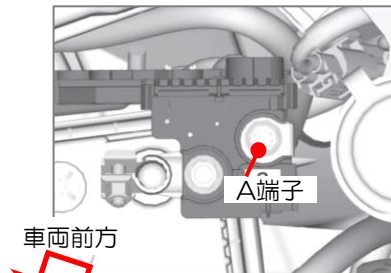
その後、プラス（+）端子側の赤いカバーを外して、右下図のA端子 及び B端子を外して（または切断して）ください。

【参考】

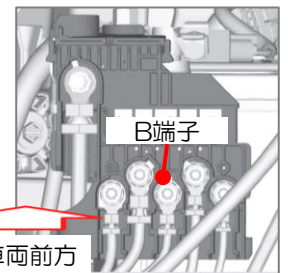
12Vバッテリーからマイナス（-）およびプラス（+）の両端子を外しただけでは、電気的な接続を切断できません。



プラス（+）端子のフタを開け、タブ①を引いてカバーを取り外す



上から見た状態



後ろから見た状態

※プラス（+）端子の赤いカバーを外した状態の図

⚠ 注意

パワー スイッチOFF後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあってください。

レスキュー活動を開始してください

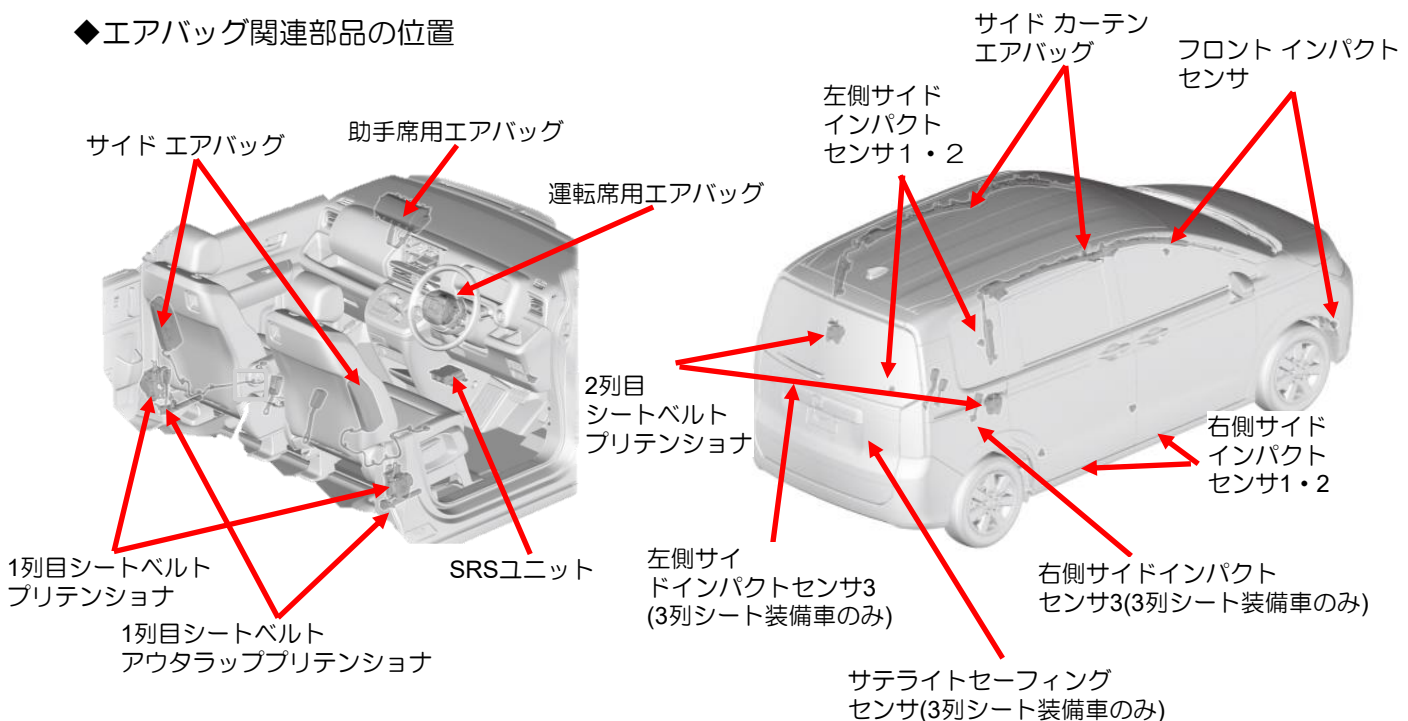
3. レスキュー作業時の注意

■車両切断時の注意と処置

▲ 警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- ・ 高電圧部位は切断しないでください。高電圧遮断後であっても切断により高電圧部分が露出すると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ 未展開のエアバッグや未作動のシートベルトプリテンショナは切断しないでください。エアバッグやシートベルトプリテンショナには高圧ガス発生装置が装備されているため、切断すると重大な障害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ エアバッグやセンサは切断しないでください。切断による配線のショートや衝撃等により、不意にエアバッグが展開すると、レスキュー作業時の2次災害を招くおそれがあります。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- ・ エアバッグシステムは、パワースイッチOFFまたは12Vバッテリーの接続を外してから、3分間はシステムが機能しているため、必ず3分以上の経過を確認してから切断作業を行ってください。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- ・ 火花による引火等により重大な傷害をおよぼすおそれがあるため、油圧カッターなど火花が飛ばない機器を使用して切断してください。

◆エアバッグ関連部品の位置



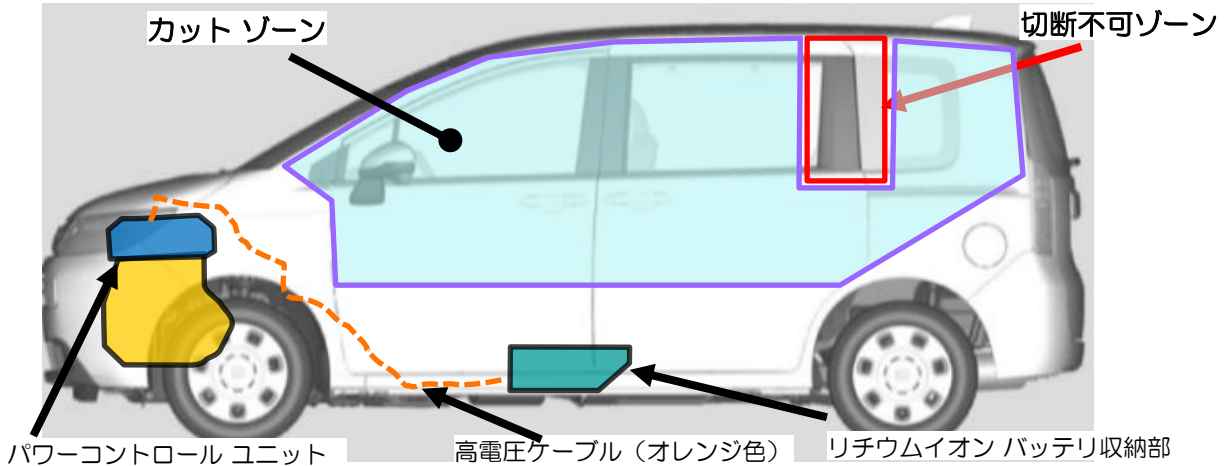
3. レスキュー作業時の注意

◆カットゾーン（切断可能領域）

乗員救助のために車体を切断したり、油圧カッターなどを使う必要がある場合は、下図のカットゾーンの範囲内で行ってください。

⚠ 警告

- ・車体側面にあるサイドカーテンエアバッグの高圧ガス発生装置部分近辺（下図の切断不可ゾーン）は、切断しないでください。切断すると重大な障害や死亡に至るおそれがあります。ただし、サイドカーテンエアバッグが展開済であれば切断しても問題ありません。

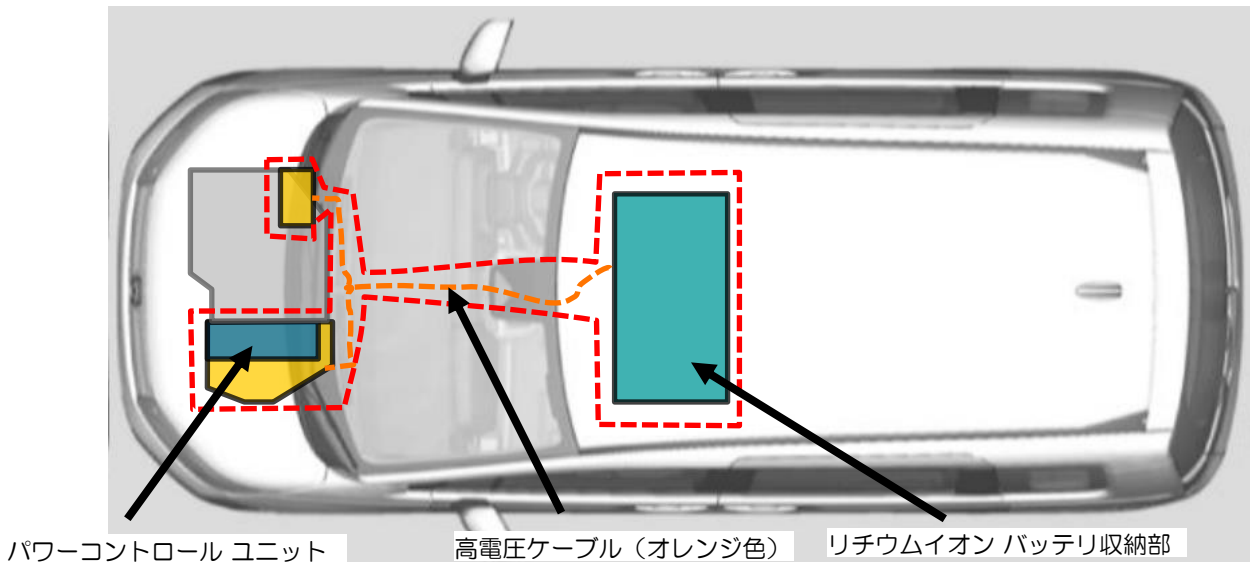


◆高電圧部品の位置

乗員救助のために車体を切断したり、油圧カッターなどを使う必要がある場合は、車体底面の高電圧ケーブルおよびリチウムイオンバッテリー付近を避けてください。

⚠ 警告

- ・高電圧部位は切断しないでください。特にリチウムイオンバッテリーは高電圧遮断後であっても切断により高電圧部分が露出すると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。



4. 事故車運搬要領

▲ 警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

■ 車両データ

項目 車種	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	ホイール ベース (mm)	車両重量 (kg)
FREED e:HEV 2WD	4,310	1,695 ～1,720	1,755	2,740	1,430 ～1,530
FREED e:HEV AWD	4,310	1,695 ～1,720	1,780	2,740	1,510 ～1,580

*: 型式およびグレードによって全幅、車両重量が異なります。

■ けん引要領

けん引は次の点を守って行ってください。



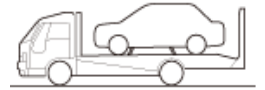
- けん引ロープなどは、フロント/リヤけん引フック以外に掛けないこと（フロント/リヤ タイダウン スロットは車両固定時のみ使用すること）。
- 車両を持ち上げるためにバンパを使用しないこと。
- 車両に損傷を与えるけん引は行わないこと。
- 速度は30km/h以下で、走行距離80km以内のけん引とすること（4輪を持ち上げてのけん引を除く）。
- 前後の車輪が動かない場合は、4輪を持上げて運搬すること。
- Nポジションの状態にならない場合、4輪を持上げて運搬すること。
- 道交法に従ってけん引すること。

※本機種では、パワーモードをOFFモードにすると、パーキング ブレーキが自動で作動するよう車両の設定を変更することが可能です。

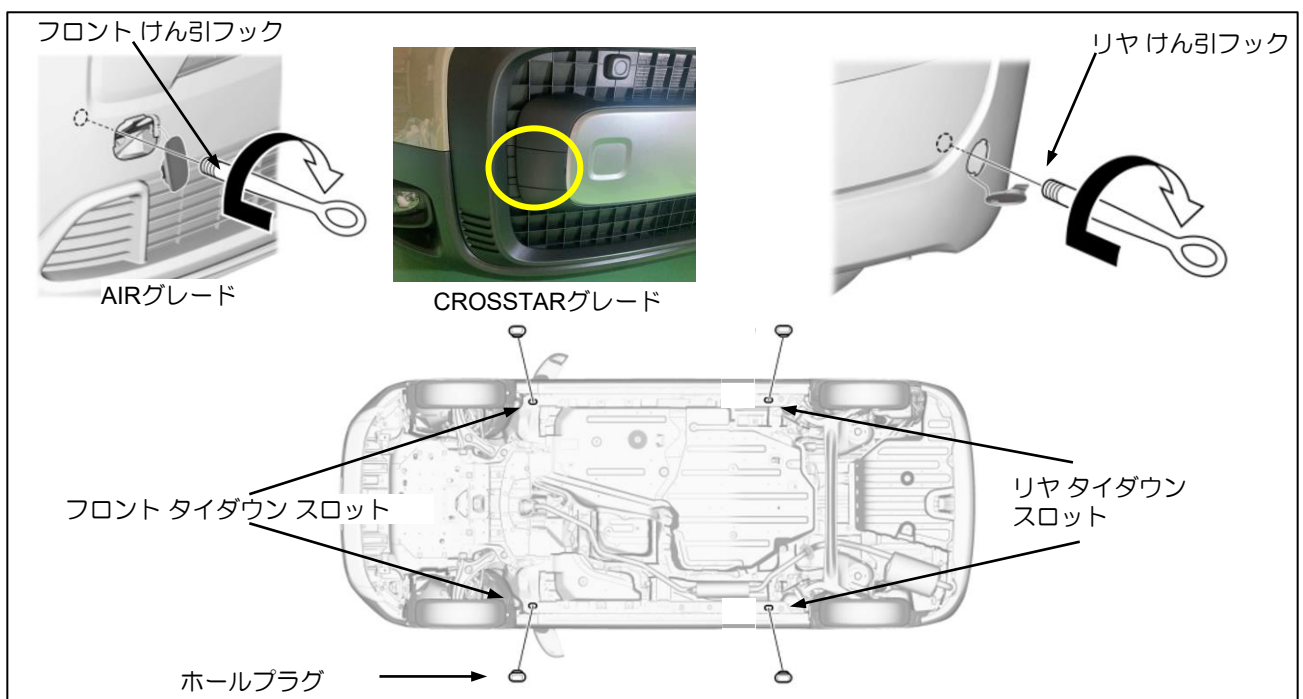
けん引の場合には、必要に応じて自動パーキングブレーキ作動機能をOFFにして、パーキング ブレーキが掛からないようにしてください（15ページ参照）。

4. 事故車運搬要領

けん引は下表に従って行ってください。

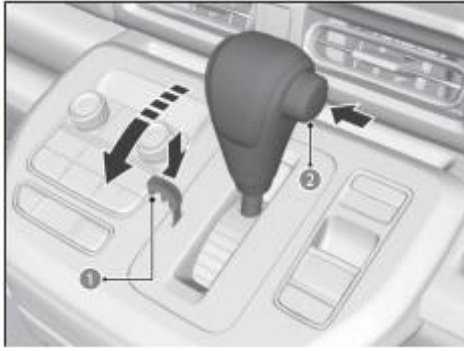
けん引方法	駆動方式		シフト位置	条件または注意事項
	2WD	AWD		
<ul style="list-style-type: none"> ロープによるけん引 	×	×	—	前輪を地面に接した状態でのけん引は、モータが回転して電動パワートレイン システムにダメージを与える場合があります。また、駆動装置が破損する恐れがあります。
<ul style="list-style-type: none"> 前輪を持ち上げてのけん引または、 トレッカによるけん引 	○	×	Nポジション	<p>パーキング ブレーキを解除すること。</p> <p>自動パーキングブレーキ作動機能をON/OFFする方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ①パワーモードをONモードにする ②シフトポジションをPにする ③ブレーキを踏まずにパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする →ブレーキ警告灯が点灯していることを確認 ④ピーッ ピュー・・・と鳴り始めたら手をはなし、3秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げる ⑤操作完了音が聞こえたらスイッチから手をはなす（パーキングブレーキの作動状態はブレーキ警告灯で確認してください） →ONになると「ピーッ ピュー」と鳴ります →OFFになると「ピー」と鳴ります
<ul style="list-style-type: none"> 4輪を持ち上げてのけん引 	○	○	Pポジション	<ol style="list-style-type: none"> ①車両が飛出さないように必ず車両を固定すること。 ②パーキング ブレーキをかけること。

■けん引フック・タイダウン スロットの位置



4. 事故車運搬要領

■緊急時のシフトレバー操作方法



- ①パワーモードをOFFにしてください。
- ②シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込みます。
※内蔵キーがなければ代用品でも可能です。
- ③キーを押しながらシフトレバーのボタンを押し、シフトレバーを操作します。

高電圧作業中
触るな！



高電圧作業中
触るな！

担当 _____

ハイブリッド車 レスキュー時の取り扱い

SPORT HYBRID i-DCD
intelligent Dual-Clutch Drive

FREED



平成28年9月

改訂1：令和4年11月

本田技研工業株式会社

※改訂箇所は赤文字で記載

はじめに

本書は、ハイブリッド車「FREED HYBRID/FREED+ HYBRID」のレスキュー活動をする際に注意していただきたい事項を説明しています。
安全に作業していただくためにも、本書をよくお読みいただき注意事項を遵守してください。

FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDは、全車スポーツ ハイブリッド i-DCDシステムを採用しています。




i-DCDとはインテリジェント デュアル クラッチ ドライブの略称で、本システムは電気モーターとガソリン エンジンの両方を動力源として効率的に使用するハイブリッド システムです。

※改訂1：牽引時のNポジション保持モードの追加

本田技研工業株式会社

安全に関する表示について

以下のシンボル マークのある項目は、安全に関して特に重要な事項を説明しています。
必ずお読みください。

 危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
 注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの



※車両の高電圧部位には左図のような高電圧警告マークが貼付されています。

目次

1. FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDの見分け方	2
2. ハイブリッド車について	3
■高電圧部位	3
■高電圧の隔離	4
■高電圧の遮断	4
■リチウムイオン バッテリについて	4
■リチウムイオン バッテリ液漏れ時の処置	5
■車両の固定および安定を図る際は	5
■車両移動時の注意事項	5
3. レスキュー作業時の注意	6
■処置概要	6
■補機類の事前処理	6
■乗員を車室内から救助する際は	6
■火災時の注意と処置	7
■水没時の注意と処置	7
■リチウムイオン バッテリ破損時の注意と処置	8
■高電圧システムの遮断方法	9
■車両切断時の注意と処置	12
4. 事故車運搬要領	14
■車両データ	14
■けん引要領	15
■アイ ボルト取付け位置・タイダウン スロットの位置	17
高電圧注意標示	巻末

1. FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDの見分け方

1. FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDの見分け方

以下にFREED HYBRID/FREED+ HYBRIDの外観および特徴を紹介します。

事故車両が該当車種であれば、本書に記載の注意事項を遵守してレスキュー作業にあってください。

外 観

フロント フェンダーおよび後部にエンブレムがあります。



内 装



17M FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDはセレクト レバーの形状が写真のようになっています。

型式による識別

運転席側の床にある確認用リッド内に型式およびフレーム ナンバーが表示されています。フレーム ナンバーの前3ケタが型式になります。

表示例：GB7 - XXXXXXX (7桁の数字) 2WD

GB8 - XXXXXXX (7桁の数字) 4WD

ハイブリッド車のFREED HYBRID/FREED+ HYBRIDであることは、最初の3ケタの記号「GB7」または「GB8」で 識別できます。



運転席シート右側足元床面



打刻位置

2. ハイブリッド車について

2. ハイブリッド車について

FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDの高電圧システムは、総電圧173V以上の高電圧を使用しています。そのため、レスキュー活動にあたっては、高電圧に対する注意と対応が必要です。

▲ 警告

- ・オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- ・事故処理後の車両保管時など関係者が車両から離れる場合、他の人がハイブリッド車と知らずに不用意に触れることがないように、車両には「高電圧作業中・触るな」の標示をしてください。（本書巻末の高電圧注意標示をコピーしてご活用ください）

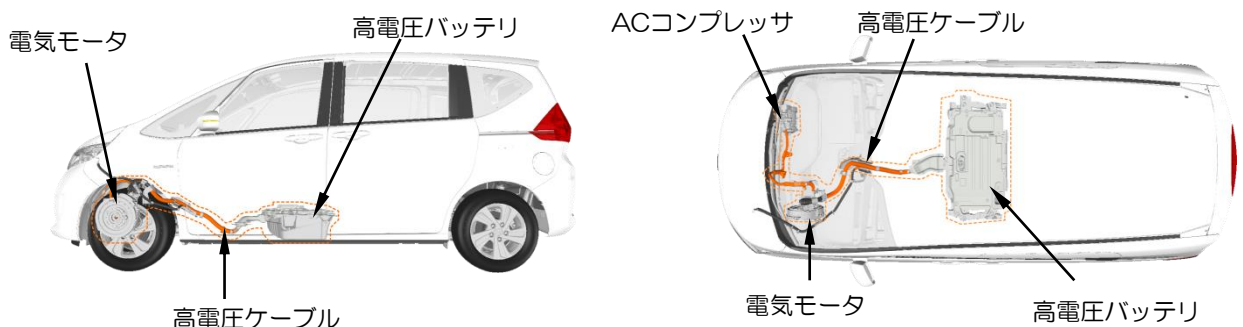
【準備品】FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDのレスキュー活動にあたっては、あらかじめ以下の物を準備しておいてください。

- ①絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕
- ②ABC消火器
- ③耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕
- ④ウエス、古タオル

■高電圧部位

FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDの高電圧部位は、以下の通りです。

- ・イラスト中の点線で囲まれた部分が高電圧部位です。
- ・高電圧ケーブルは、オレンジ色なので識別できます。



▲ 警告

- ・車両の吊り上げやジャッキ アップ時、フロア下側の高電圧ケーブルに物が当たらないようにしてください。高電圧ケーブルが破損または切断された場合、配線が露出し不用意に触れると、高電圧による重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

2. ハイブリッド車について

■高電圧の隔離

FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDは、高電圧が隔離されています。

- ・ 高電圧回路はプラス（+） / マイナス（-）の両極とも車体と絶縁されています。
- ・ 高電圧機器、高電圧配線にはケースやカバーを設け、高電圧部分の露出をなくしています。
- ・ エンジン ルーム内の高電圧配線もケーブル カバーにより隔離されています。
- ・ 高電圧配線はオレンジ色で識別されています。
- ・ 高電圧部分には注意ラベルを貼付しています。

■高電圧の遮断

FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDは、高電圧を遮断できるシステムを備えています。

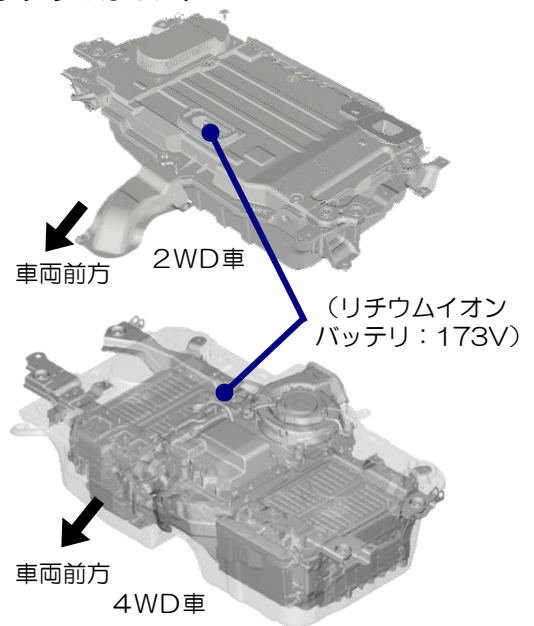
- ・ 高電圧回路の遮断は、パワー スイッチに連動しています。パワー スイッチがOFFになることにより高電圧回路は遮断されます。
- ・ 衝突や水没などにより、短絡や過電流があった場合はバッテリー コントロール ユニットにより高電圧は遮断されます。またヒューズが溶断することによっても高電圧が遮断されます。

■リチウムイオンバッテリーについて

FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDは、12Vの自動車用バッテリーのほかに、高電圧のリチウムイオン バッテリー（駆動用電池）を搭載しています。リチウムイオン バッテリーは、公称最大電圧173Vのリチウムイオン バッテリーを使用しています。

リチウムイオン バッテリーは、ケースに収められ車両中央床下に格納されていますので、通常はリチウムイオン バッテリー本体は見えないようになっています。

また、バッテリー電解液もリチウムイオン バッテリー内に密閉されていますので、交換・補充は不要です。万一、リチウムイオン バッテリーが破損しても電解液は多量に流出するおそれはありません。液漏れした場合の処置については、次項をお読みください。



⚠ 危険

- ・ 車両損傷などで高電圧部品内部の構成部品や高電圧配線の導体が露出していた場合は、絶対に触らないでください。高電圧部品に不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

2. ハイブリッド車について

■リチウムイオン バッテリー液漏れ時の処置

FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDのリチウムイオン バッテリーの電解液には揮発性有機溶剤が使用されています。

また、無色透明のため見ただけでは判別できません。

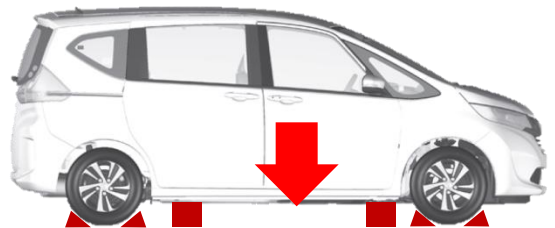
リチウムイオン バッテリー付近に液漏れが確認され電解液が疑われる場合は、耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕を必ず着用し、乾燥したウエス等で漏れた液を拭き取ってください。使用したウエス等は密閉できる袋や容器に格納し、産業廃棄物として適切に処理してください。

▲ 警告

- ・リチウムイオン バッテリーの電解液は人体に有害なため、目に入ったり皮膚に付着すると失明や傷害を受けるおそれがあります。万一、電解液が目に入ったり皮膚に付着した場合は直ちに多量の水で洗浄し、専門医の診断を受けてください。

■車両の固定および安定を図る際は

通常車両と同様に、パーキング ブレーキをかけて輪止めをしてください。そして車両の下に木片等の支持物を置いてタイヤの空気を抜くか、救出用リフトエアバッグ装置などを使用して車両を安定させてください。



▲ 警告

- ・支持物やリフト エアバッグ装置は、フロア下の高電圧部分や、排気系・燃料系などを避けて設置してください。高電圧部分の破損を招いたり、熱による予期せぬ火災の原因になるおそれがあります。

■車両移動時の注意事項

通常車両とは異なり、パワー スイッチOFF状態では、自動的にパーキング レンジにシフトされます。パワー スイッチOFF状態、またはバッテリーを外した状態では、パーキング レンジの解除ができません。車両移動時、パーキング レンジを解除できないときは、車輪を持ち上げて移動してください。詳細については、14, 15ページのけん引要領をご参照ください。

3. レスキュー作業時の注意

3. レスキュー作業時の注意

■処置概要

FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDもガソリン エンジンを搭載しています。通常のカソリンエンジン車と同様の注意が必要なのはもちろんですが、ハイブリッド車固有の注意として高電圧に対する注意と処置が必要になります。

以下の各項目をよく読み、実際の作業時には状況に応じた対応をしてください。

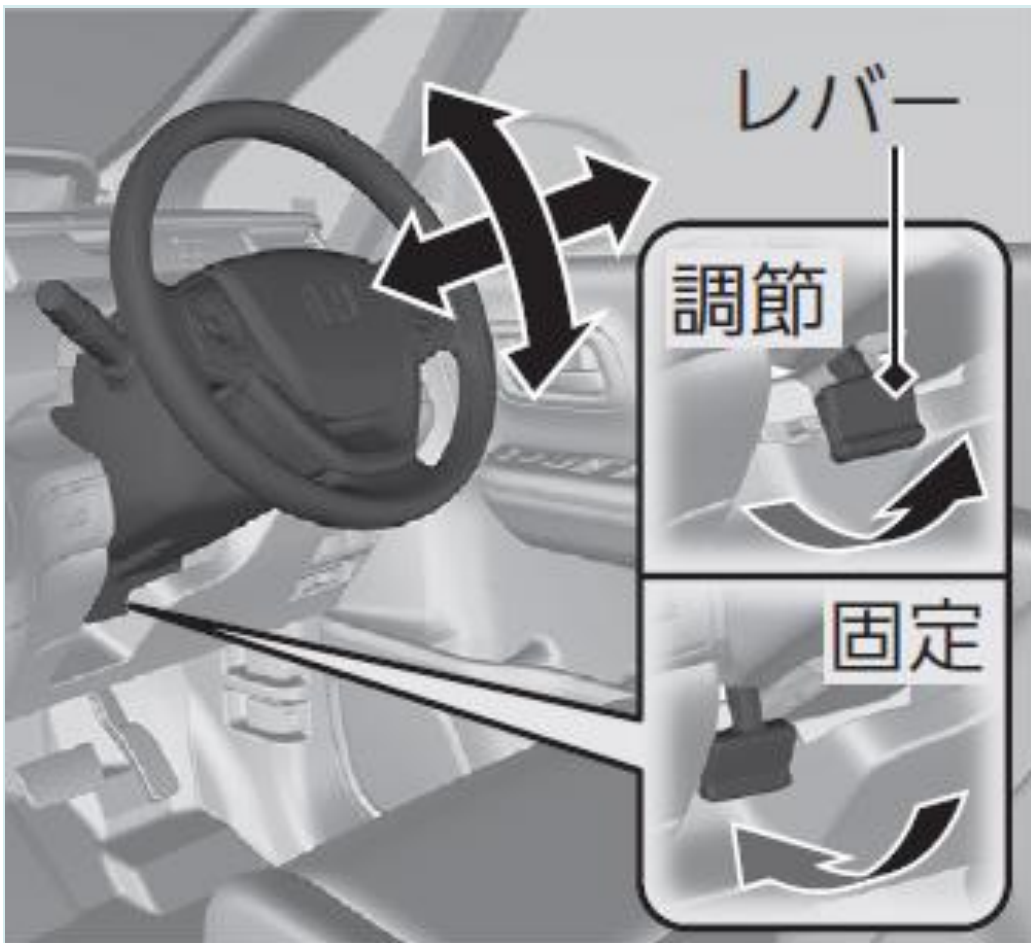
■補機類の事前処理

必要に応じて、パワー ウィンドやドアロック等の操作を行ってください。

【重要】12Vバッテリーの接続を切り離すと、上記電装関係の操作が不可能になります。

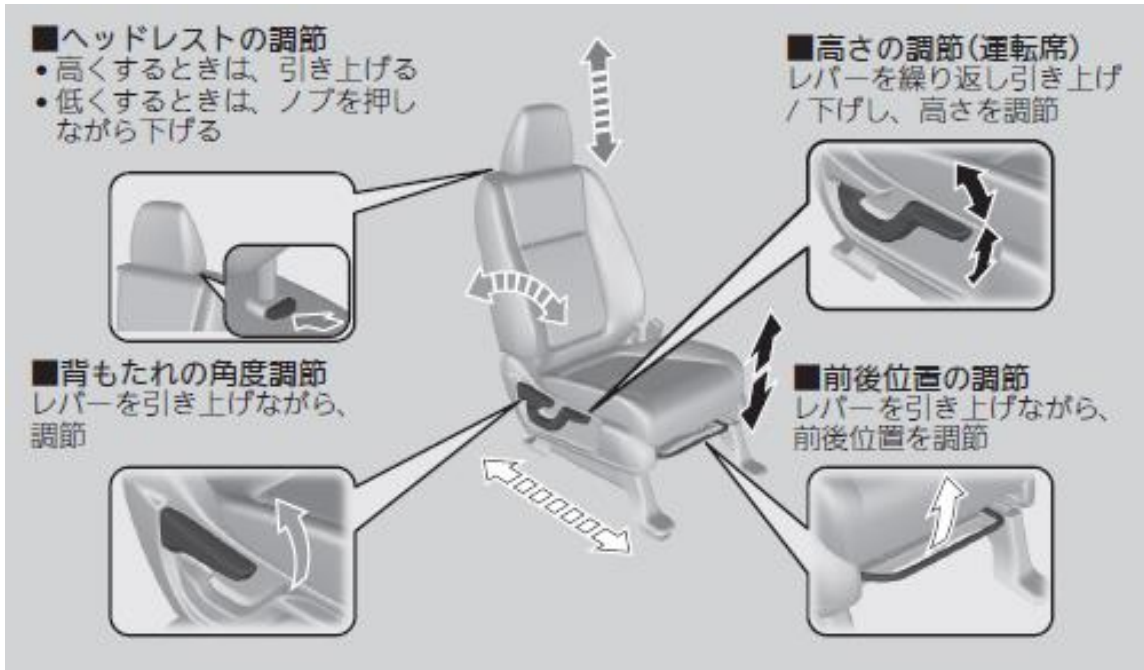
■乗員を車室内から救助する際は

前席に座っている乗員救助のためにスペースを確保する必要がある場合は、ハンドルの位置を調整してください。



3. レスキュー作業時の注意

同様に、スペース確保の必要に応じてフロント シートの位置を調整してください。



■火災時の注意と処置

車両火災時には、バッテリーの冷却を兼ねて大量の放水により消火してください。大量の放水が困難な場合はABC消火器（油火災・電気火災の両方に対応するもの）により消火してください。

火災時は電気配線の絶縁被覆が燃えることにより回路がショートし、パワー系のヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。また、大量の放水による漏電によっても回路がショートし、パワー系のヒューズやリチウムイオンバッテリーのメインヒューズが溶断し、高電圧が遮断されます。

火災部位により、ヒューズが溶断しない、放水による漏電が起きないなど、状況によっては高電圧が遮断されない場合もありますので、消火後は9ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

【参考】FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDの高電圧システムに使用されている部品には、爆発性のあるものではありません。

■水没時の注意と処置

車両水没時、水の浸入による漏電で回路がショートすることにより、パワー系のヒューズやリチウムイオンバッテリーのメインヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。

水深が浅い、水の浸入による漏電が起きない部位の水没など、状況によって高電圧が遮断されない場合もありますので、可能な限り9ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

3. レスキュー作業時の注意

■リチウムイオン バッテリ破損時の注意と処置

衝突などでリチウムイオン バッテリが破損していた場合には、以下の警告を守ってください。

万一、液漏れが疑われる場合は、5ページの「リチウムイオン バッテリ液漏れ時の処置」の項に従ってください。

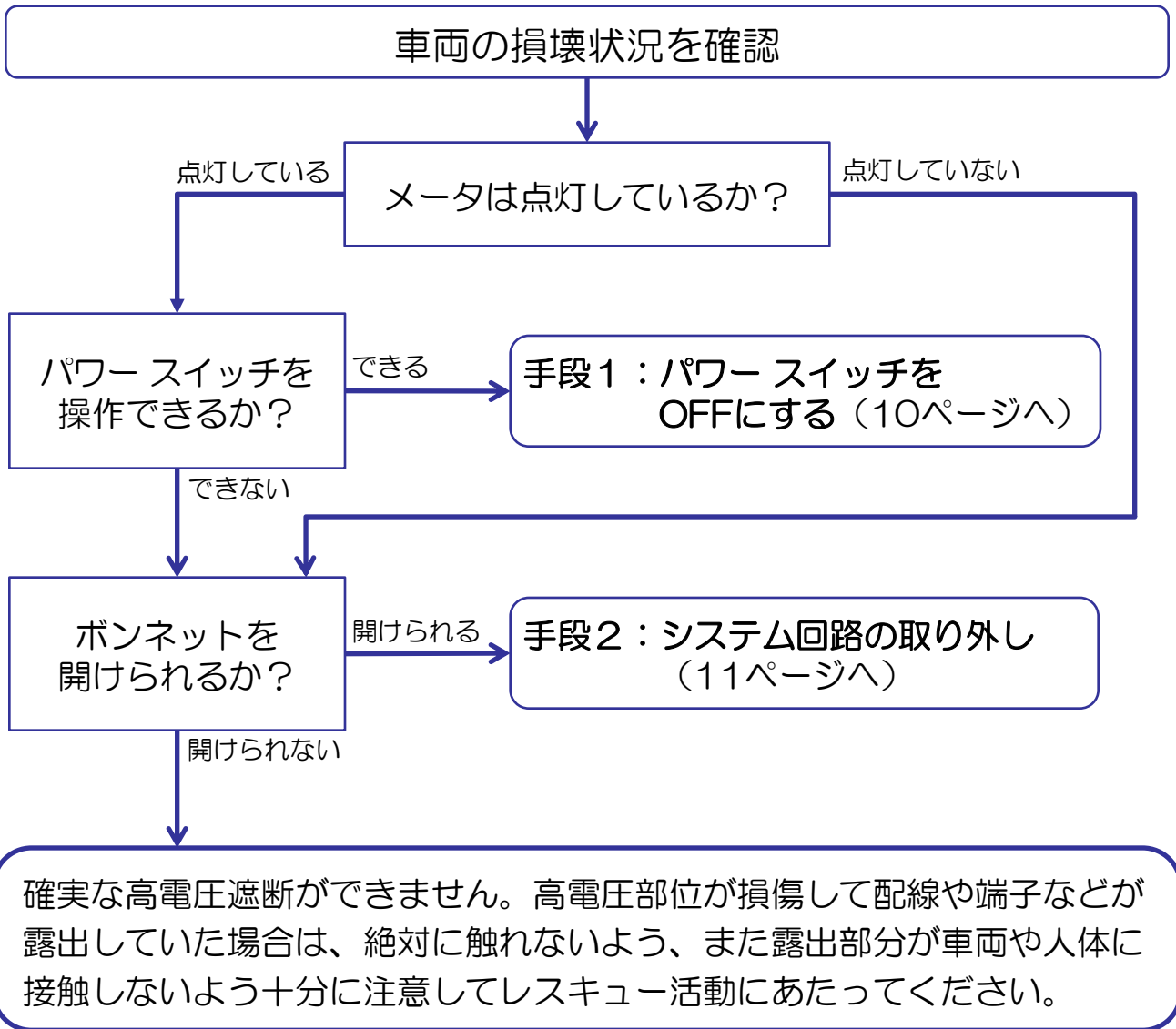
▲ 警告

- オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

3. レスキュー作業時の注意

■高電圧システムの遮断方法

車両の損傷状況に応じて、高電圧を遮断してください。以下に紹介するどの方法でも高電圧は遮断できます。高電圧の遮断後は通常のレスキュー活動が可能です。
下図の流れに従って、最も容易な方法を選択してください。



⚠ 警告

- オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

3. レスキュー作業時の注意

手段1：パワー スイッチをOFFにする

◆車両が損壊していても、パワー スイッチ操作ができる場合

パワー スイッチをOFFにしてください

- ①パーキング スイッチを押してください。
- ②パワー スイッチを約2秒以上押し続けて、OFFにします。

パーキングスイッチ



2秒以上長押し



▲ 注意

メータ内の表示が消灯状態でパワー スイッチを操作するとシステムが起動する場合があります。

メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください

メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください。

※意図しない再始動を防ぐためにも、キーレスリモコンを車から最低でも6メートル離してください。



▲ 注意

パワー スイッチOFF後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあってください。

レスキュー活動を開始してください

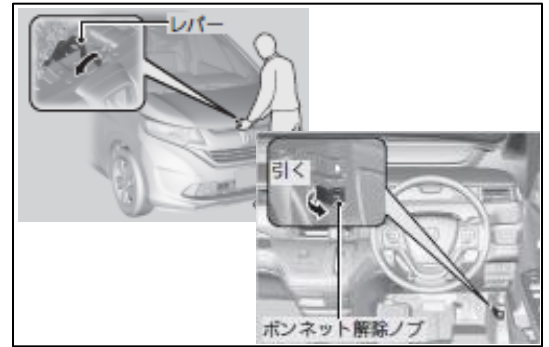
3. レスキュー作業時の注意

手段2：システム回路の取り外し

◆パワー スイッチ操作ができないが、ボンネットは開けられる場合

ボンネットを開けてください

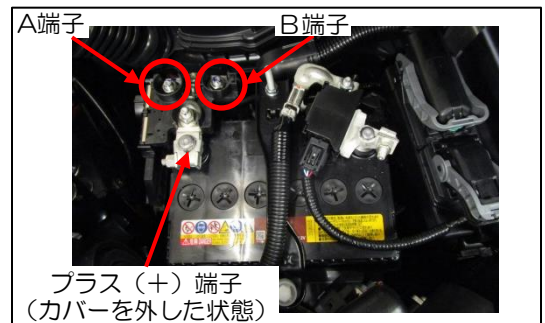
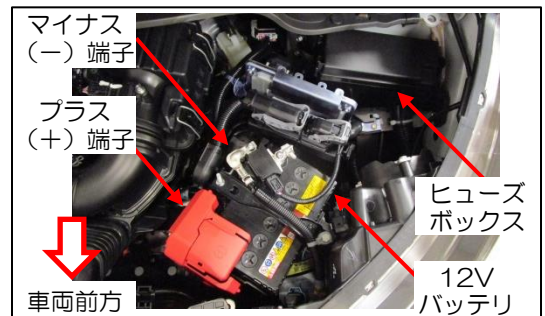
運転席足元にあるボンネット解除ノブを手前に引き、浮き上がったボンネット前部中央にあるレバーを引き上げてロック機構を解除し、ボンネットを引き上げます。上記手順が実行できない場合は、ポールなどでボンネットをこじ開けてください。可能ならば、開いたボンネットは備え付けのステーで固定してください。



12Vバッテリーの接続を外してください

12Vバッテリーから、マイナス（-）端子側のケーブルを外します。その後、プラス（+）端子側のカバーを外して、図のA端子を外して（または切断して）ください。

【参考】A端子の電気的接続を切る必要があります。
12Vバッテリーのプラス（+）端子から外すことが目的ではありません。



⚠ 注意

パワー スイッチOFF後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあってください。

レスキュー活動を開始してください

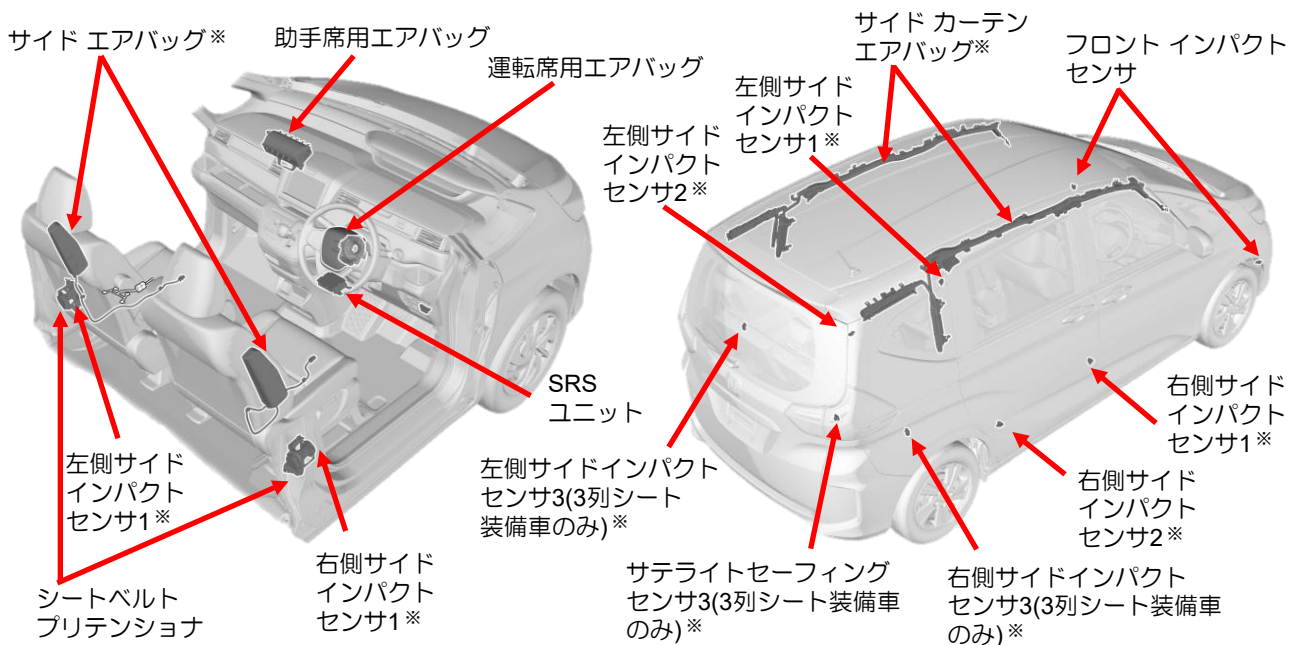
3. レスキュー作業時の注意

■車両切断時の注意と処置

⚠ 警告

- オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- 高電圧部位は切断しないでください。高電圧遮断後であっても切断により高電圧部分が露出すると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- 未展開のエアバッグや未作動のシートベルトプリテンショナは切断しないでください。エアバッグやシートベルトプリテンショナには高圧ガス発生装置が装備されているため、切断すると重大な障害や死亡に至るおそれがあります。
- エアバッグやセンサは切断しないでください。切断による配線のショートや衝撃等により、不意にエアバッグが展開すると、レスキュー作業時の2次災害を招くおそれがあります。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- エアバッグシステムは、パワースイッチOFFまたは12Vバッテリーの接続を外してから、3分間はシステムが機能しているため、必ず3分以上の経過を確認してから切断作業を行ってください。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- 火花による引火等により重大な傷害をおよぼすおそれがあるため、油圧カッターなど火花が飛ばない機器を使用して切断してください。

◆エアバッグ関連部品の位置



※：サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグ装備車

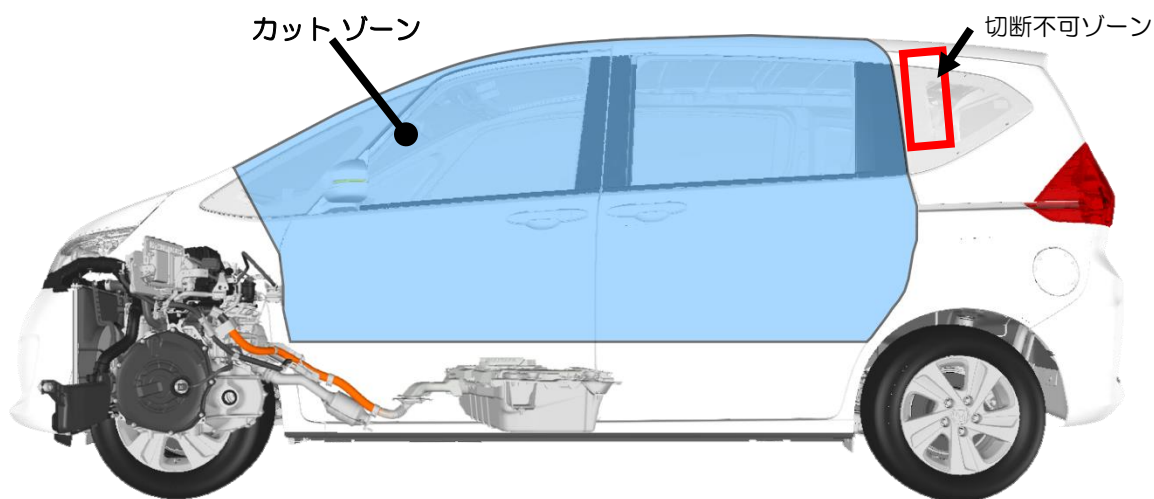
3. レスキュー作業時の注意

◆カットゾーン（切断可能領域）

乗員救助のために車体を切断したり、油圧カッターなどを使う必要がある場合は、下図のカットゾーンの範囲内で行ってください。

⚠ 警告

- ・車体側面にあるサイドカーテンエアバッグの高圧ガス発生装置部分近辺（下図の切断不可ゾーン）は、切断しないでください。切断すると重大な障害や死亡に至るおそれがあります。ただし、サイドカーテンエアバッグが展開済であれば切断しても問題ありません。

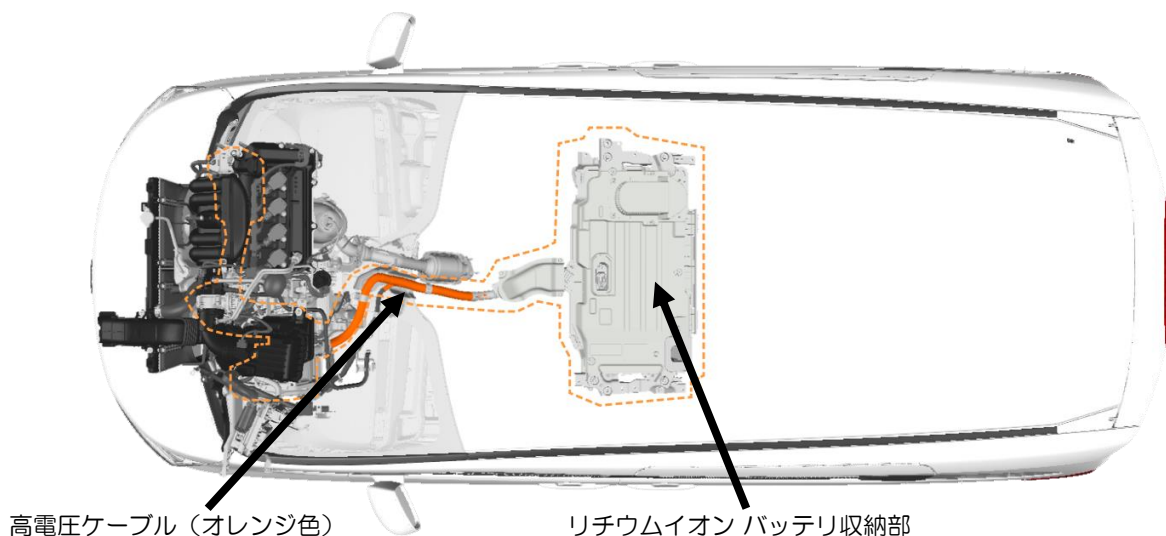


◆高電圧部品の位置

乗員救助のために車体を切断したり、油圧カッターなどを使う必要がある場合は、車体底面の高電圧部位である高電圧ケーブルおよびリチウムイオンバッテリー付近を避けてください。

⚠ 警告

- ・高電圧部位は切断しないでください。特にリチウムイオンバッテリーは高電圧遮断後であっても切断により高電圧部分が露出すると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。



高電圧ケーブル（オレンジ色）

リチウムイオンバッテリー収納部

4. 事故車運搬要領

▲ 警告

- ・オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

■ 車両データ

項目 車種	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	ホイール ベース (mm)	車両重量 (kg)
FREED HYBRID 2WD	4,265	1,695	1,710	2,740	1,400～ 1,470*
FREED HYBRID 4WD	4,265	1,695	1,735	2,740	1,480～ 1,510*
FREED+ HYBRID 2WD	4,295	1,695	1,710	2,740	1,420～ 1,440*
FREED+ HYBRID 4WD	4,265	1,695	1,735	2,740	1,490～ 1,500*

*: 型式およびグレードによって全長、車両重量が異なります。

■ けん引要領

けん引は次の点を守って行ってください。

- ・けん引は四輪または前輪を持ち上げて行ってください。
- ・車両を持ち上げるためにバンパを使用しないこと。
- ・車両に損傷を与えるけん引は行わないこと。
- ・速度は30km/h以下で、走行距離80km以内のけん引とすること（4輪を持ち上げてのけん引を除く）
- ・道交法に従ってけん引すること。

※FREED HYBRID/FREED+ HYBRIDは前輪が接地した状態でけん引されると、モータが回転してシステムにダメージを与える場合があります。

4. 事故車運搬要領

■牽引にあたり、まずフレームナンバーをご確認下さい（P2に場所記載）


* 下記図の牽引時の「Nポジション保持モード」の方法がフレームナンバー毎に違います

■フレームナンバーが下記の数字から始まる場合はこのページの方法を参願います

2WD：GB7 - 10XXXXXX / 50XXXXXX / 60XXXXXX

4WD：GB8 - 10XXXXXX

フレームナンバーを確認し、けん引は下表に従って行ってください。

けん引方法	駆動方式		シフト位置	条件または注意事項
	2WD	4WD		
<ul style="list-style-type: none"> ロープによるけん引 	×	×	—	4輪を地面に設置した状態でのけん引は、トランスミッションまたはバンパが破損するおそれがあるので、絶対に行わない。
<ul style="list-style-type: none"> 前輪を持ち上げてのけん引または、 トレッカによるけん引 	○	×	Nポジション	<p>Nポジション保持モードへの移行方法*</p> <ol style="list-style-type: none"> ブレーキを踏んだ状態でPOWERスイッチを押し、READY状態にする。 セレクトレバーをNポジションにし、5秒以内にPOWERスイッチをACCモードにする。 マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングに入れてください」表示が出ていることを確認する。 ACCモード移行後、5秒以上経過してから12Vバッテリーのマイナス（-）端子を外す。 パーキングブレーキを解除する。
<ul style="list-style-type: none"> 4輪を持ち上げてのけん引 	○	○	Pポジション	<ol style="list-style-type: none"> 車両が飛出さないように必ず車両を固定すること。 パーキングブレーキをかけること。



【参考】12Vバッテリーが上がっている、または接続を切り離している場合、シフトポジションの切替えができない場合があります。

4. 事故車運搬要領

■牽引にあたり、まずフレームナンバーをご確認下さい（P2に場所記載）

* 下記図の牽引時の「Nポジション保持モード」の方法がフレームナンバー毎に違います

■フレームナンバーが下記の数字から始まる場合はこのページの方法を参願います

2WD：GB7 - 31XXXXX / 71XXXXX / 81XXXXX

GB7 - 32XXXXX / 72XXXXX / 82XXXXX

4WD：GB8 - 31XXXXX / 32XXXXX

フレームナンバーを確認し、けん引は下表に従って行ってください。

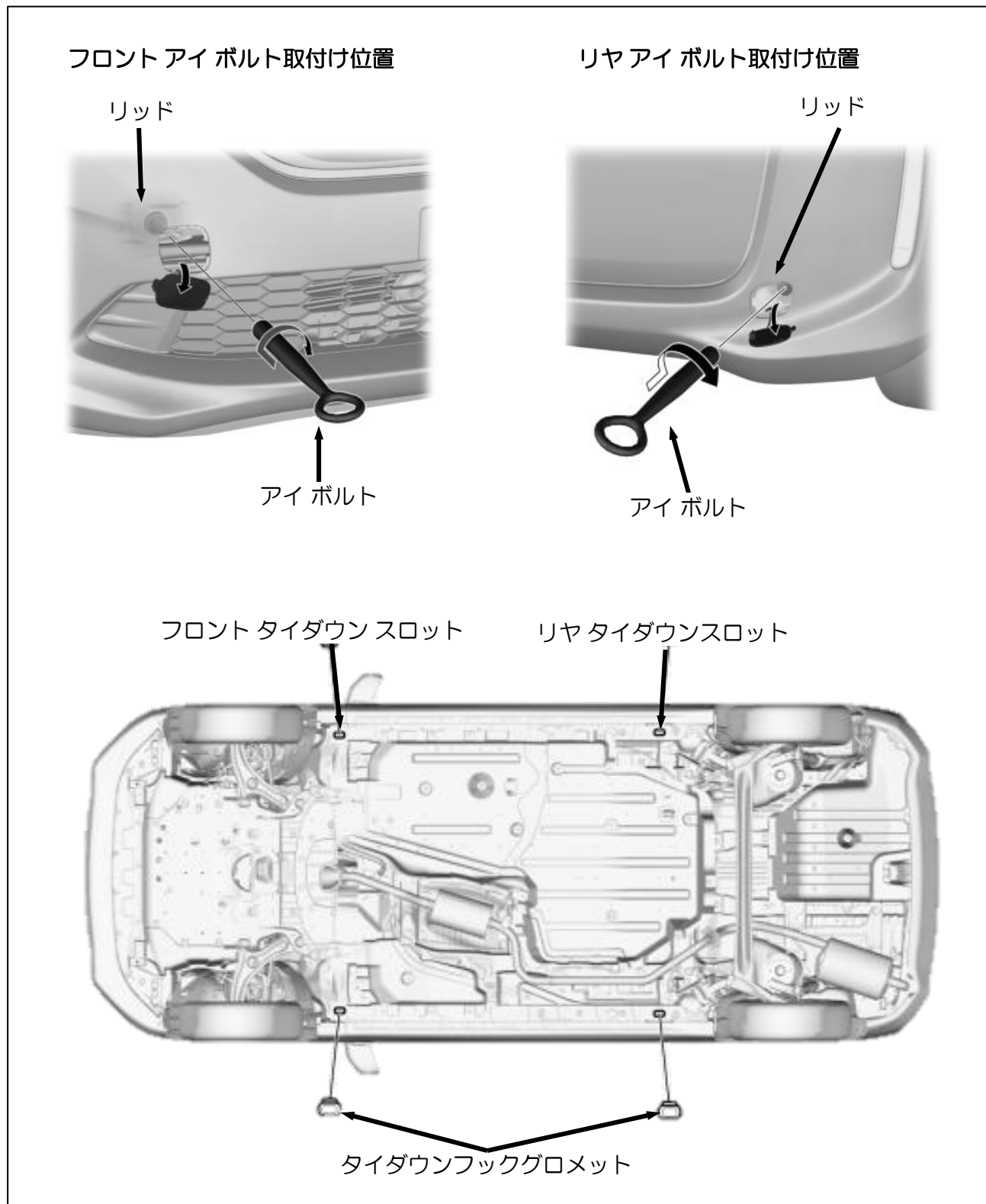
けん引方法	駆動方式		シフト位置	条件または注意事項
	2WD	4WD		
<ul style="list-style-type: none"> ロープによるけん引 	×	×	—	4輪を地面に設置した状態でのけん引は、トランスミッションまたはバンパが破損するおそれがあるので、絶対に行わない。
<ul style="list-style-type: none"> 前輪を持ち上げてのけん引または、 トレッカによるけん引 	○	×	Nポジション	<ul style="list-style-type: none"> パーキングブレーキを解除する。 ■ Nポジション保持モードへの移行方法 <ol style="list-style-type: none"> POWERスイッチがONモードの状態です。ブレーキペダルを踏んで停車する。 POWERスイッチをOFFモードにした後、2秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。 ■ Nポジション保持モードへの移行方法 <ol style="list-style-type: none"> ブレーキを踏んだ状態でパワースイッチを押し、READY状態にする シフトポジションをNポジションにする ブレーキペダルを踏んだまま、再度“N”ボタンを押すのと同時にパワースイッチを押す。 マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングに入れてください」表示が出ていることを確認する ③の状態となってから12Vバッテリーのマイナス（-）端子を外す
<ul style="list-style-type: none"> 4輪を持ち上げてのけん引 	○	○	Pポジション	<ol style="list-style-type: none"> 車両が飛出さないように必ず車両を固定すること。 パーキングブレーキをかけること。



【参考】12Vバッテリーが上がっている、または接続を切り離している場合、シフトポジションの切替えができない場合があります。

4. 事故車運搬要領

■アイ ボルト取付け位置・タイダウン スロットの位置



表示
！ 触るな！
中 業 作 業 中 高 電 圧 注 意 標 示 

 高電圧作業中
触るな！

担当

ハイブリッド車 レスキュー時の取り扱い

IMA INTEGRATED MOTOR ASSIST

FREED
HYBRID

FREED *Spike*
HYBRID



はじめに

本書は、ハイブリッド車「FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID」のレスキュー活動をする際に注意していただきたい事項を説明しています。




安全に作業していただくためにも、本書をよくお読みいただき注意事項を遵守してください。

FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID は、全車 IMA システムを採用しています。IMA とはインテグレートッド モータ アシストの略称で、主動力としてのガソリン エンジンに加えて、補助動力としての電気モータ（IMA モータ）による駆動を行う高効率のハイブリッド システムです。

本田技研工業株式会社

安全に関する表示について

以下のシンボル マークのある項目は、安全に関して特に重要な事項を説明しています。必ずお読みください。

 危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
 注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

目 次

1. FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID の見分け方	2
2. ハイブリッド車について	3
■高電圧部位	3
■高電圧の隔離	4
■高電圧の遮断	4
■IMA バッテリーについて	4
■IMA バッテリー液漏れ時の処置	5
■車両の固定および安定を図る際は	5
3. レスキュー作業時の注意	6
■処置概要	6
■乗員を車室内から救助する際は	6
■火災時の注意と処置	7
■水没時の注意と処置	7
■IMA バッテリー破損時の注意と処置	7
■補機類の事前処理	7
■高電圧の遮断方法	8
■車両切断時の注意と処置	11
4. 事故車運搬要領	13
■車両データ	13
■けん引要領	13
■アイ ボルト取付け位置・タイダウン スロットの位置	14
高電圧注意標示	巻末

1. FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID の見分け方

1. FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID の見分け方

以下に FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID の外観および特徴を紹介します。事故車両が該当車種であれば、本書に記載の注意事項を遵守してレスキュー作業にあってください。

外観

◆FREED HYBRID



◆FREED Spike HYBRID

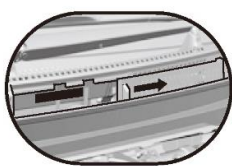


型式による識別

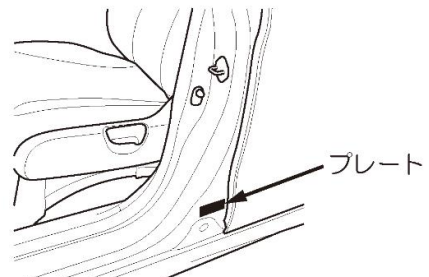
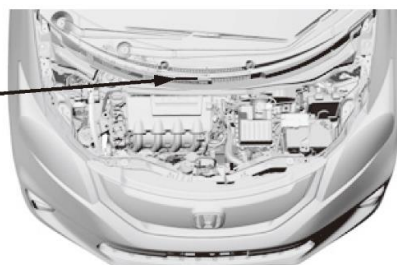
エンジン ルーム内の刻印または助手席側ドア ピラーのプレートに型式およびフレーム ナンバーが表示されています。フレーム ナンバーの前3ケタが型式になります。

(7桁の数字)
表示例：GP3 - ×××××××

ハイブリッド車のFREED HYBRID / FREED Spike HYBRID であることは、最初の3ケタの記号「GP3」で識別できます。



打刻



プレート

2. ハイブリッド車について

FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID の IMA システムは、100V の高電圧を使用しています。そのため、レスキュー活動にあたっては高電圧に対する注意と対応が必要になります。



警告

- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。
- 露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁手袋を着用してください。

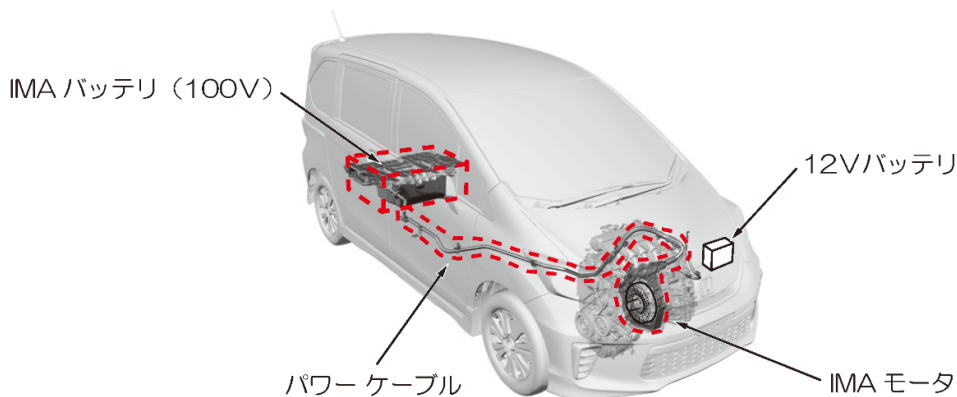
【準備品】 FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID のレスキュー活動にあたっては、あらかじめ以下の物を準備しておいてください。

- | | |
|----------------------------------|------------|
| ① 保護具〔絶縁手袋(耐アルカリ性のもの)、保護メガネ、絶縁靴〕 | ④ ABC 消火器 |
| ② 飽和ほう酸水 20L | ⑤ ウェス・古タオル |
| ③ 赤色リトマス試験紙 | ⑥ 絶縁テープ |

■ 高電圧部位

FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID の高電圧部位は、以下の通りです。

- イラスト中の点線で囲まれた部分が高電圧部位を示します。
- 高電圧ケーブルは、オレンジ色なので識別できます。



警告

フロア下側に高電圧ケーブルが配線されています。高電圧ケーブルが破損または切断された場合、配線が露出し高電圧による重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。車両の吊り上げやジャッキ アップ時、高電圧ケーブルに物が当たらないようにしてください。

【参考】事故処理後の車両保管時、関係者が車両から離れる場合、周囲に注意を喚起するために「高電圧作業中・触るな」の標示をしてください。(本書巻末の高電圧注意標示をコピーしてご活用ください)

2. ハイブリッド車について

■高電圧の隔離

FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID は、高電圧が隔離されています。

- 高電圧回路はプラス（+） / マイナス（-）の両極とも車体と絶縁されています。
- 高電圧機器、高電圧ケーブルにはケースやカバーを設け、高電圧部分の露出をなくしています。
- 高電圧電装部品およびIMA バッテリーは、車両後部に集中的に配置し、ケースに収納されています。
- エンジン ルーム内の高電圧ケーブルも、カバーにより隔離されています。
- 高電圧ケーブルはオレンジ色で識別されています。
- また、高電圧部分には注意ラベルを貼付しています。

■高電圧の遮断

FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID は、高電圧が遮断できるようになっています。

- 高電圧回路の遮断は、イグニッション スイッチに連動しています。イグニッション スイッチがOFF になることにより高電圧回路は遮断されます。

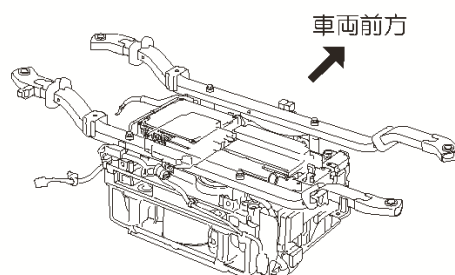
■IMA バッテリーについて

FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID は、12Vの自動車用バッテリーのほかに、高電圧用のIMA バッテリー（駆動用電池）を搭載しています。このIMA バッテリーの電解液には、強アルカリ性（pH13 以上）の水酸化カリウム水溶液が使われています。

IMA バッテリーは、ケースに収められ車両後部床下に格納されていますので、通常はIMA バッテリー本体は見えないようになっています。また、

バッテリー電解液もIMA バッテリー内に密閉されていますので、交換や補充を行うこともありません。

なお、万一IMA バッテリーが破損しても電解液は多量に流出するおそれはありません。漏れたとしても滲む程度です。万一液漏れした場合の処置については、次項をお読みください。



IMA バッテリー（100V）



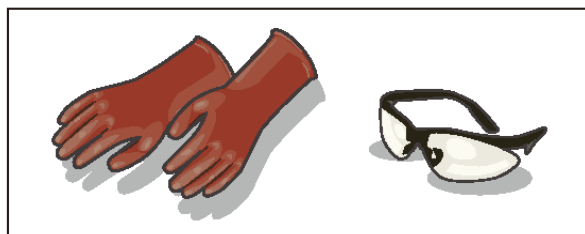
危険

- 電解液は強アルカリ性です。目に入ったり皮膚に付着すると、失明や傷害を受ける危険があります。万一、目に入ったり皮膚に付着した場合は直ちに多量の水で洗浄し、専門医の診断を受けてください。
- やむを得ず触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず保護手袋・保護メガネを着用してください。

■ IMA バッテリー液漏れ時の処置

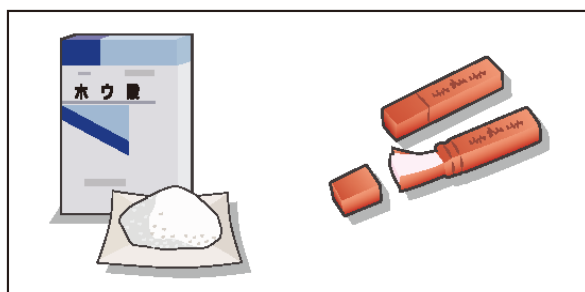
IMA バッテリー液（電解液）は強アルカリ性のため有害です。また、無色無臭のため見ただけでは判別できません。万一、IMA バッテリー付近に液漏れが確認され電解液が疑われる場合は、下記手順による飽和ほう酸水による中和作業が必要となります。

- ①作業は、耐アルカリ性の手袋・保護メガネを必ず着用のうえ行ってください。



- ②赤色リトマス試験紙、中和剤（飽和ほう酸水）を事前に準備してください。

- ・ 中和剤は、粉末のほう酸（800g）を水（20L）に溶かして作る飽和ほう酸水を用意してください。



- ③赤色リトマス試験紙を漏れた液につけ、変色の有無を確認してください。

- ・ 赤色リトマス試験紙が青色に変化した場合、中和剤（飽和ほう酸水）をかけ、変色しなくなるまで中和後、ウエス等で漏れた液を拭き取ってください。

- ④中和作業は、野外では風上側から、屋内の場合は換気が充分な場所で行ってください。

- ⑤電解液が皮膚に触れた場合は、直ちに多量の水で洗い流してください。電解液が付着した衣服は直ちに脱いでください。

- ⑥電解液が万一、目に入った場合は、こすらずに直ちに多量の水で洗い流してから専門医の診断を受けてください。

【参考】・ 赤色リトマス試験紙、ほう酸は薬局で購入できます。

- ・ 中和後の電解液は、そのまま下水等に流しても問題はありません。

■ 車両の固定および安定を図る際は

通常車両と同様に、パーキングブレーキをかけて輪止めをしてください。そして車両の下に木片等の支持物を置いてタイヤの空気を抜くか、救出用リフトエアバッグ装置などを使用して車両を安定させてください。

【重要】 支持物やリフトエアバッグ装置は、フロア下の高電圧部分や、排気系・燃料系などを避けて設置してください。



3. レスキュー作業時の注意

3. レスキュー作業時の注意

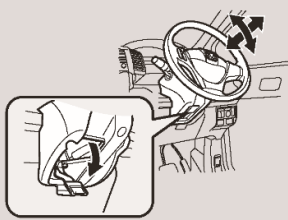
■処置概要

FREED HYBRID / FREED Spike HYBRID もガソリン エンジンを搭載しています。通常のカソリン エンジン車と同様の注意が必要なのはもちろんですが、ハイブリッド車固有の注意として高電圧に対する注意と処置が必要になります。

以下の各項目をよく読み、実際の作業時には状況に応じた対応をしてください。

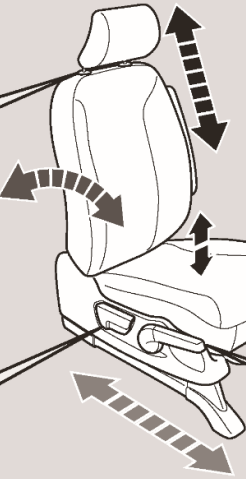
■乗員を車室内から救助する際は

乗員救助のためにスペースを確保する必要がある場合は、ハンドル位置を調整してください。

チルト / テレスコピック ステアリング装備車	チルト ステアリング装備車
<p>レバーを押し下げて、前後・上下に位置を調整します。</p> 	<p>レバーを押し下げて、上下に位置を調整します。</p> 

同様に、スペース確保の必要に応じてフロント シートの位置を調整してください。

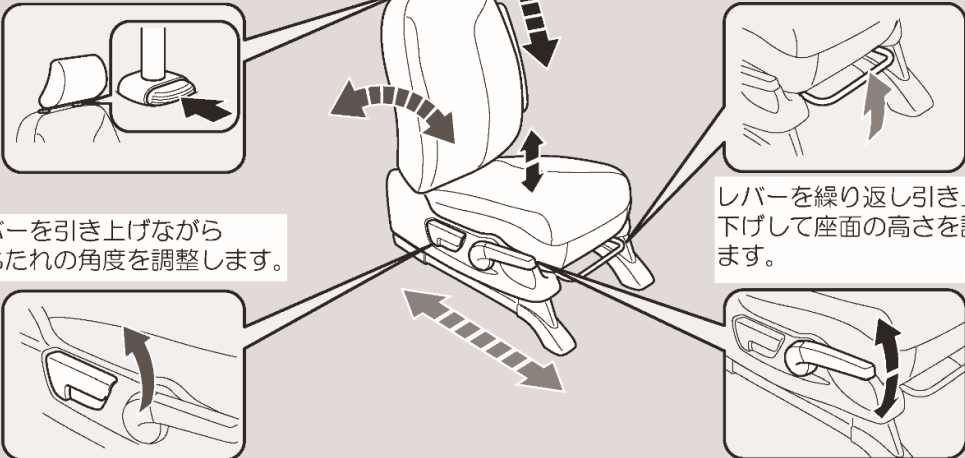
ヘッドレストを高くするときは引き上げます。
低くするときはノブを押しながら下げます。取り外すときはノブを押しながら引き上げます。



レバーを引き上げながらシートの前後位置を調節します。

レバーを繰り返して引き上げ／下げして座面の高さを調節します。

レバーを引き上げながら背もたれの角度を調整します。



■火災時の注意と処置

車両火災時には、ABC 消火器（油火災・電気火災の両方に対応するもの）または大量の放水により消火してください。

消火後は 8 ページの「高電圧の遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

【参考】IMA システムに使用されている部品には、爆発性のあるものではありません。

■水没時の注意と処置

車両水没時には、8 ページの「高電圧の遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

■IMA バッテリ破損時の注意と処置

万一、衝突などで IMA バッテリが破損していた場合には、露出した端子や金属部分、高電圧ケーブルなどには絶対に触らないでください。やむを得ず触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁手袋を着用してください。万一、液漏れがあった場合は 5 ページの「IMA バッテリ液漏れ時の処置」の項に従ってください。



- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。
- 露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁手袋を着用してください。

■補機類の事前処理

必要に応じて、パワー ウインドやドア ロックおよびテールゲート等の操作を行ってください。

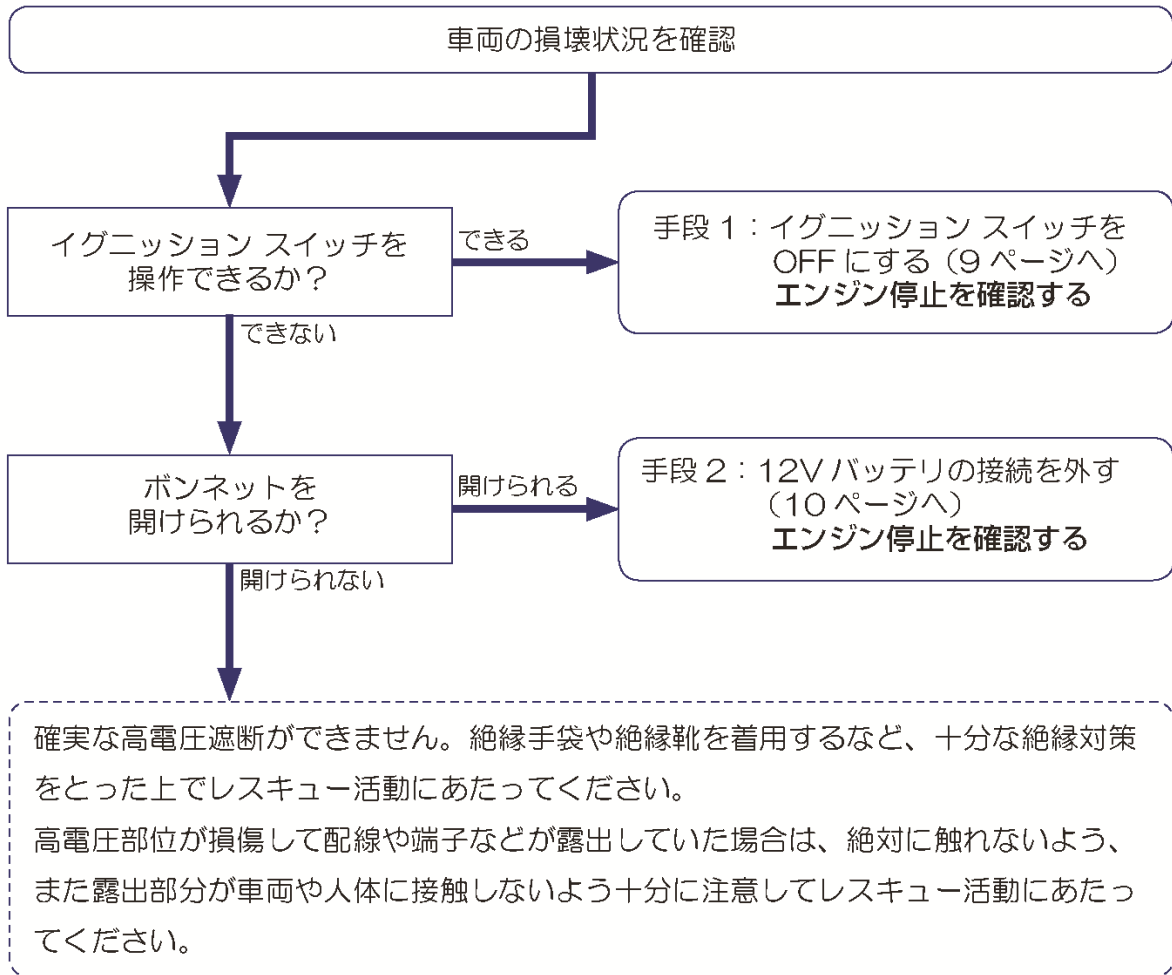
【重要】 12V バッテリの接続を切り離すと、上記電装関係の操作が不可能になります。

3. レスキュー作業時の注意

■高電圧の遮断方法

車両の損傷状況に応じて、高電圧を遮断してください。以下に紹介するどの方法でも高電圧は遮断できません。高電圧の遮断後は通常のレスキュー活動が可能です。

下図の流れに従って、最も容易な方法を選択してください。



警告

- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。
- 露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁手袋を着用してください。

手段 1：イグニッション スイッチを OFF にする

◆車両が損壊していても、イグニッション スイッチ操作ができる場合

イグニッション スイッチを OFF にします

CVT 車はセレクト レバーを P ポジションにしてから OFF にしてください。



注意

オートアイドルストップシステムが装備されています。エンジンが停止していてもイグニッション スイッチが OFF であるとは限りません。必ずイグニッション スイッチを OFF ("0" 位置) にしてください。

【参考】 オートアイドルストップシステムとは、停車した際にエンジンを自動的に停止し、発進時に自動的に再始動するシステムです。

キーを抜きます

キーが抜けない場合および Honda スマート キー装備車の場合は、次ページの手段 2 を実行してください。

【参考】 この手順は、誤操作など予期せぬイグニッション スイッチの ON が、遮断した高電圧を復活させるおそれがあるためです。



Honda スマート キー装備車のイグニッション スイッチ部。キーではなくノブになっています。



注意

- 必ずエンジン停止を確認してください。
- イグニッション スイッチ OFF 後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約 5 分間を要します。高電圧遮断直後は、回路のショート等に十分注意し作業にあたってください。

レスキュー活動を開始してください

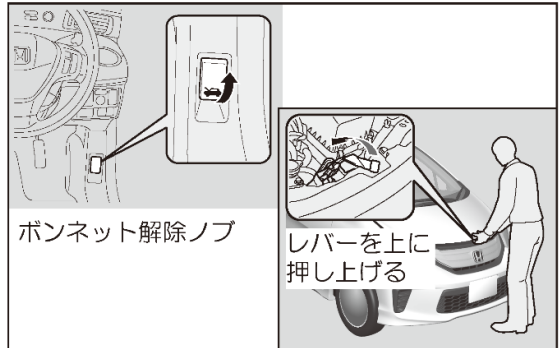
3. レスキュー作業時の注意

手段 2：12V バッテリーの接続を外す

◆イグニッション スイッチ操作ができないが、ボンネットは開けられる場合

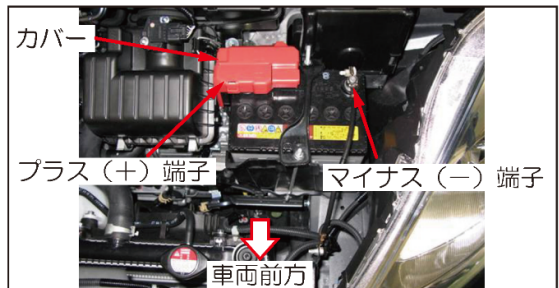
ボンネットを開けます

運転席足元にあるボンネット解除ノブを手前に引き、浮き上がったボンネット前部中央にあるレバーを上押ししてロック機構を解除し、ボンネットを引き上げます。上記手順が実行できない場合は、パールなどでボンネットをこじ開けてください。可能ならば、開いたボンネットは備え付けのステーで固定してください。

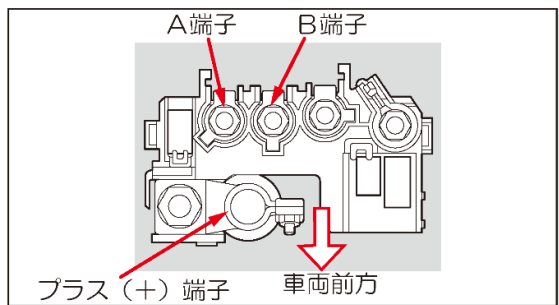



12V バッテリーの接続を外します

12V バッテリーから、マイナス (-) 端子側のケーブルを外します。その後、プラス (+) 端子側のカバーを外して、図の A 端子または B 端子を外して (または切断して) ください。



【参考】A 端子と B 端子の電氣的接続を切る必要があります。12V バッテリーのプラス (+) 端子から外すことが目的ではありません。





注意

- 必ずエンジン停止を確認してください。
- 12V バッテリーの接続を外した後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約 5 分間を要します。高電圧遮断直後は、回路のショート等に十分注意し作業にあってください。

レスキュー活動を開始してください

■車両切断時の注意と処置

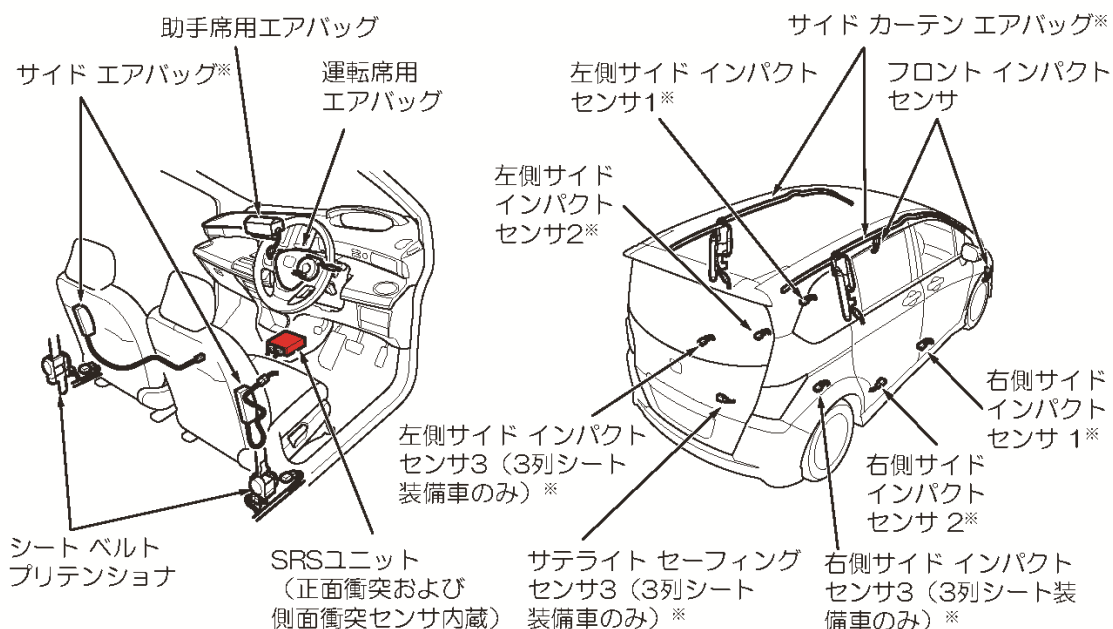


警告

- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。
- 露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁手袋を着用してください。
- 高電圧部位は切断しないでください。
- 火花による引火等により重大な傷害をおよぼすおそれがあるため、油圧カッターなど火花が飛ばない機器を使用して切断してください。
- エアバッグシステムは、イグニッションスイッチ OFF または 12V バッテリーの接続を外してから、3分間はシステムが機能しているため、必ず3分以上の経過を確認してから作業を行ってください。

乗員救助のために車両を切断する場合は、未展開のエアバッグおよび高電圧部分に注意が必要です。不用意な切断作業は配線のショートや衝撃等による不意のエアバッグ展開を招き、レスキュー作業時の2次災害につながります。ただし、すべてのエアバッグが作動済みであれば問題ありません。また、高電圧遮断後であっても、高電圧部位は切断しないでください。

◆エアバッグ関連の注意



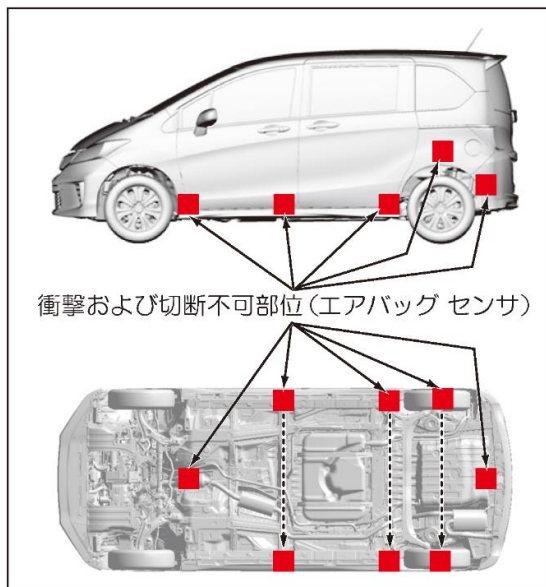
※：サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグ装備車

各エアバッグおよびシートベルトプリテンションには高圧ガス発生装置が装備されています。これらの部品は切断しないようにしてください。ただし、作動済みであれば問題ありません。

3. レスキュー作業時の注意

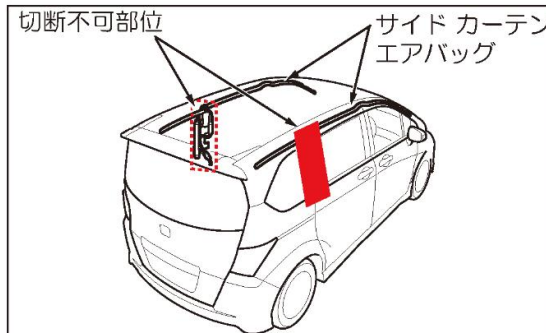
センサ近辺（前ページの図および右図の赤い部分）に衝撃を与えたり切断しないよう注意してください。

ただし、エアバッグが作動済み、もしくはイグニッションスイッチOFFまたは12Vバッテリーの接続を切り離してから3分以上経過後であれば問題ありません。



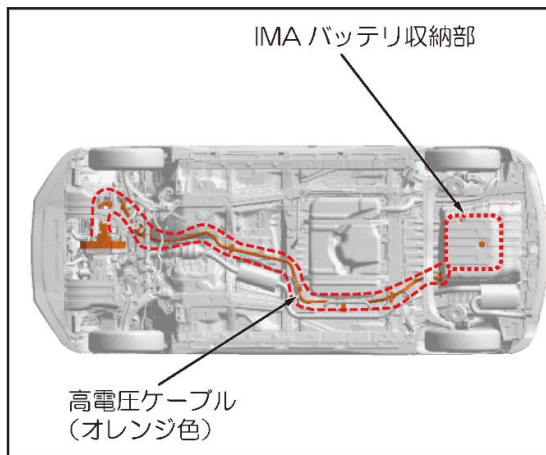
車体側面にあるサイドカーテンエアバッグの高圧ガス発生装置部分近辺（右図の赤い部分）は、切断しないよう、特に注意してください。

ただし、作動済みであれば問題ありません。



◆高電圧関連の注意

装備仕様にかかわらず、車体底面の高電圧部位である高電圧ケーブルおよびIMAバッテリー付近は切断しないでください。特にIMAバッテリーは高電圧遮断後であっても切断しないでください。



4. 事故車運搬要領



警告

- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。
- 露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁手袋を着用してください。

■車両データ

項目	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	ホイールベース (mm)	車両重量 (kg)
FREED HYBRID	4,215	1,695	1,715	2,740	1,390 ~ 1,420
FREED Spike HYBRID	4,210	1,695	1,715	2,740	1,380 ~ 1,410




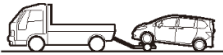
■けん引要領

けん引は次の点を守って行ってください。

- けん引ロープなどは、アイボルト以外に掛けないこと（タイダウンスロットは車両固定時のみ使用すること）。
- 車両を持ち上げるためにバンパを使用しないこと。
- 車両に損傷を与えるけん引は行わないこと。
- けん引する場合は、セレクトレバーを一度DポジションにしてからNポジションにすること。
- Nポジションの状態にならない場合は、4輪を持ち上げて運搬すること。
- 速度は30km/h以下で、走行距離80km以内のけん引とすること（4輪を持ち上げての運搬を除く）。
- 前後の車輪が動かないときは、4輪を持ち上げて運搬すること。
- 道交法に従ってけん引すること。

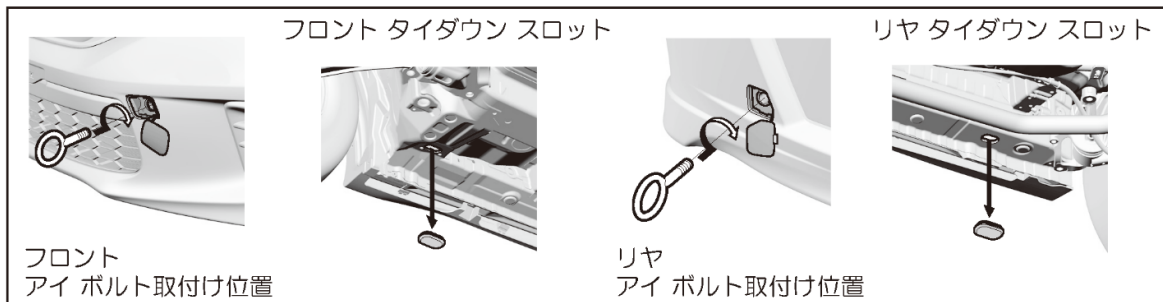
4. 事故車運搬要領

けん引は下表に従って行ってください。

けん引方法	シフト位置	条件または注意事項
・ロープによるけん引 	N ポジション	①イグニッションスイッチをACC (I) またはON (II) にする。 ②パーキングブレーキを解除する。 ・HMMF 量が、規定量にあることを確認すること。 (規定量にない場合は、4 輪を持ち上げて運搬すること。)
・前輪を持ち上げてのけん引 	N ポジション	パーキングブレーキを解除する。
・4 輪を持ち上げての運搬 	P ポジション	・車両が飛出さないように必ず車両を固定すること。 ・パーキングブレーキをかけること。
・トレッカによるけん引 	N ポジション	パーキングブレーキを解除する。

【参考】12V バッテリーが上がっている、または接続を切り離している場合、P ポジションから切り替えられない場合があります。

■アイ ボルト取付け位置・タイダウン スロットの位置



高電圧注意標示

____ 担当
触るな！
高電圧作業中 

 高電圧作業中
触るな！ 担当 _____

コピーをとり、よく見える場所に貼るなどしてご活用ください。

